

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2018年12月20日(20.12.2018)



(10) 国際公開番号

WO 2018/230033 A1

- (51) 国際特許分類:
G02B 13/04 (2006.01) *G02B 13/18* (2006.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2018/004774
- (22) 国際出願日: 2018年2月13日(13.02.2018)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願 2017-115546 2017年6月13日(13.06.2017) JP
- (71) 出願人: パナソニック IP マネジメント株式会社(PANASONIC INTELLECTUAL PROPERTY MANAGEMENT CO., LTD.) [JP/JP]; 〒5406207 大阪府大阪市中心区域見2丁目1番61号 Osaka (JP).
- (72) 発明者: 松村 善夫(MATSUMURA Yoshio).
- (74) 代理人: 鎌田 健司, 外(KAMATA Kenji et al.); 〒5406207 大阪府大阪市中心区域見2丁目

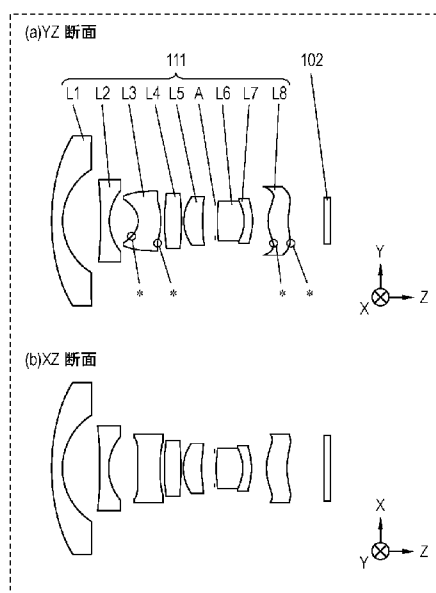
1 番 6 1 号 パナソニック IP マネジメント株式会社内 Osaka (JP).

- (81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DJ, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, JO, JP, KE, KG, KH, KN, KP, KR, KW, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.
- (84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT,

(54) Title: LENS SYSTEM, CAMERA SYSTEM, AND IMAGING SYSTEM

(54) 発明の名称: レンズ系、カメラシステム及び撮像システム

[図1]



(a) YZ cross section
(b) XZ cross section

(57) Abstract: This lens system for forming an image on a rectangular imaging element disposed on the optical axis is provided with a second free-form surface lens which is asymmetrical with respect to the optical axis. The sag amount of the second free-form surface lens in a circle separated from the optical axis by a length having a prescribed ratio with respect to the minimum image height has extrema outside of an intersection point between a first surface, which passes through the optical axis, and which is parallel to the long sides of the imaging element, and a second surface, which passes through the optical axis, and which is parallel to the short sides of the imaging element.

(57) 要約: 本開示のレンズ系は、光軸に配置された矩形的撮像素子に結像するレンズ系であって、光軸に対して非対称である第2自由曲面レンズを備え、光軸から最短像高に対する所定の比率の長さ離れた円における第2自由曲面レンズのサグ量が、光軸を通り撮像素子の長辺に平行な第1面及び光軸を通り撮像素子の短辺に平行な第2面との交点以外に極値を有する。

LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS,
SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM,
GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類：

- 一 国際調査報告（条約第21条(3)）

明 細 書

発明の名称： レンズ系、カメラシステム及び撮像システム

技術分野

[0001] 本開示は、レンズ系、カメラシステム及び撮像システムに関する。

背景技術

[0002] 中心射影方式でないレンズによって結像される像は矩形から崩れ、矩形の撮像素子を用いると、光学像と撮像素子とが重ならず使用されない感光面の領域が多くなってしまう。

[0003] 特許文献 1 は、長方形の画像センサによりパノラマ画像を撮像する方法を開示する。特許文献 1 は、魚眼対物レンズに円環レンズを用いることにより、円形画像を矩形画像にして矩形の撮像素子に結像させることを開示する。

先行技術文献

特許文献

[0004] 特許文献1：国際公開第03／101599号

発明の概要

[0005] 矩形の撮像素子の感光面の領域を有効に活用できるレンズ系、該レンズを含むカメラシステム及び撮像システムを提供する。

[0006] 本開示のレンズ系は、光軸に配置された矩形の撮像素子に結像するレンズ系であって、光軸に対して非対称である第2自由曲面レンズを備え、光軸から最短像高に対する所定の比率の長さ離れた円における第2自由曲面レンズのサグ量が、光軸を通り撮像素子の長辺に平行な第1面とその円との交点、及び光軸を通り撮像素子の短辺に平行な第2面とその円との交点以外に極値を有する。

[0007] 本開示のカメラシステムは、本開示の上記レンズ系と、光軸でレンズ系が結像する位置に配置された矩形の撮像素子と、を備える。

[0008] 本開示の撮像システムは、本開示の上記レンズ系と、光軸でレンズ系が結像する位置に配置された矩形の撮像素子と、撮像素子が生成する画像を処理

する画像処理部と、を備える。

[0009] 本発明では、略矩形の像を結像するレンズ系、該レンズ系を含むカメラシステム及び撮像システムを実現することができる。

図面の簡単な説明

- [0010] [図1]実施の形態1に係るレンズ系の無限合焦状態を示すレンズ配置図
[図2]実施の形態2に係るレンズ系の無限合焦状態を示すレンズ配置図
[図3]実施の形態3に係るレンズ系の無限合焦状態を示すレンズ配置図
[図4]実施の形態1～3に係る撮像素子の感光面の概要図
[図5]実施の形態1に係るレンズ系の自由曲面レンズのサグ量と光軸周りの角度（位相）との関係を示す図
[図6]実施の形態2に係るレンズ系の自由曲面レンズのサグ量と光軸周りの角度（位相）との関係を示す図
[図7]実施の形態3に係るレンズ系の自由曲面レンズのサグ量と光軸周りの角度（位相）との関係を示す図
[図8]実施の形態4に係るカメラシステムの概略構成図
[図9]実施の形態5に係る撮像システムの概略構成図
[図10]数値実施例1に係るレンズ系の無限合焦状態の球面収差と像面湾曲を示す収差図
[図11]数値実施例1に係るレンズ系の無限合焦状態の画角と像点の関係を示す図
[図12]数値実施例2に係るレンズ系の無限合焦状態の球面収差と像面湾曲を示す収差図
[図13]数値実施例2に係るレンズ系の無限合焦状態の画角と像点の関係を示す図
[図14]数値実施例3に係るレンズ系の無限合焦状態の球面収差と像面湾曲を示す収差図
[図15]数値実施例3に係るレンズ系の無限合焦状態の画角と像点の関係を示す図

発明を実施するための形態

[0011] 以下、適宜図面を参照しながら、実施の形態を詳細に説明する。但し、必要以上に詳細な説明は省略する場合がある。例えば、既によく知られた事項の詳細説明や実質的に同一の構成に対する重複説明を省略する場合がある。これは、以下の説明が不必要に冗長になるのを避け、当業者の理解を容易にするためである。

[0012] なお、添付図面および以下の説明は、当業者が本開示を十分に理解するために、提供されるのであって、これらにより請求の範囲に記載の主題を限定することは意図されていない。

[0013] (実施の形態1)

図1は、実施の形態1に係るレンズ系の配置図であり、無限遠合焦状態を表している。

[0014] なお、図1の(a)はYZ断面で、図1の(b)はXZ断面で、8枚のレンズ素子を有するレンズ系111と、短辺と長辺を有する矩形の撮像素子102とを表している。X方向は撮像素子102の長辺に平行な方向、Y方向は撮像素子102の短辺方向に平行な方向、Z方向は光軸に平行な方向である。また、YZ断面は、光軸を含みY方向とZ方向に平行な平面である。XZ断面は、光軸を含みX方向とZ方向に平行な平面である。

[0015] 図1に示すように、実施の形態1に係るレンズ系111は、物体側から像面側へと順に、5枚のレンズ素子L1～L5、開口絞りA、3枚のレンズ素子L6～L8を備える。レンズ系111の結像の位置は、撮像素子102の像面となっている。図1の(b)では符号を省略している。

[0016] さらに、レンズ系111を詳細に説明する。レンズ系111は、物体側から像面側へと順に、物体側に凸面を向けた負メニスカス形状のレンズ素子L1と、両凹形状のレンズ素子L2と、両凹形状のレンズ素子L3と、両凸形状のレンズ素子L4と、両面が非球面で形成されて物体側に凸面を向けた正メニスカス形状のレンズ素子L5と、開口絞りAと、両凸形状のレンズ素子L6と、像面側に凸面を向けた負メニスカス形状のレンズ素子L7と、物体

側に凸面を向けた正メニスカス形状のレンズ素子 L_8 とからなる。レンズ素子 L_6 とレンズ素子 L_7 は接合されている。ここで、レンズ素子 L_1 は第1レンズ素子の一例であり、レンズ素子 L_2 は第2レンズ素子の一例である。

[0017] レンズ系111において、レンズ素子 L_3 とレンズ素子 L_8 は、物体側と像面側の両面が XY 多項式の自由曲面である。図1において、自由曲面に*印を付している。ここで、レンズ素子 L_3 は第1自由曲面レンズの一例であり、レンズ素子 L_8 は第2自由曲面レンズの一例である。

[0018] レンズ素子 L_8 の像面側の自由曲面の、光軸から最短像高の40%以上の長さ離れたそれぞれの円におけるサグ量が、光軸を通り撮像素子102の長辺に平行な XZ 面（第1面）及び光軸を通り撮像素子102の短辺に平行な YZ 面（第2面）との交点以外に極値を有している。ここで、サグ量とは、レンズ素子の面との交点を含んだ光軸と直交する平面を基準面としたときに、基準面からレンズ素子の面上のある点までの光軸に平行な方向の距離である。サグ量を示す数式及び各レンズ素子の面データについては後述する。なお、自由曲面レンズ及び非球面レンズの面の形状は Y 方向の光軸近傍（頂点）での形状で表現している。

[0019] （実施の形態2）

図2は、実施の形態2に係るレンズ系の配置図である。図2の（a）は YZ 断面で、図2の（b）は XZ 断面で、8枚のレンズ素子からなるレンズ系121と、短辺と長辺を有する矩形の撮像素子102とを表している。図2の（b）では符号を省略している。実施の形態2のレンズ系121は、実施の形態1のレンズ系111と比較して、レンズ素子の枚数、種類及び配置順が同じで、各レンズ系素子 $L_1 \sim L_8$ の面データが異なる。面データの相違点については、後述する。レンズ系121において、レンズ素子 L_1 は第1レンズ素子の一例であり、レンズ素子 L_2 は第2レンズ素子の一例であり、レンズ素子 L_3 は第1自由曲面レンズの一例であり、レンズ素子 L_8 は第2自由曲面レンズの一例である。

[0020] 実施の形態2のレンズ系121では、光軸から最短像高の20%以上の長

さ離れたそれぞれの円におけるレンズ素子 L_8 の像面側の自由曲面のサグ量が、光軸を通り撮像素子 102 の長辺に平行な XZ 面（第1面）及び光軸を通り撮像素子 102 の短辺に平行な YZ 面（第2面）との交点以外に極値を有している。

[0021] （実施の形態3）

図3は、実施の形態3に係るレンズ系の配置図である。図3の（a）は YZ 断面、図3の（b）は XZ 断面で、7枚のレンズ素子を有するレンズ系 131 と、短辺と長辺を有する矩形の撮像素子 102 とを表している。図3の（b）では符号を省略している。実施の形態3のレンズ系 131 は、実施の形態1のレンズ系 111 と比較して、レンズ素子の枚数（7枚）及び各レンズ系素子 $L_1 \sim L_7$ の面データが異なる。

[0022] 図3に示すように、実施の形態3に係るレンズ系 131 は、物体側から像面側へと順に、4枚のレンズ素子 $L_1 \sim L_4$ 、開口絞り A 、3枚のレンズ素子 $L_5 \sim L_7$ を備える。レンズ系 131 の結像の位置は、撮像素子 102 の像面となっている。面データの相違点については、後述する。

[0023] さらに、レンズ系 131 を詳細に説明する。レンズ系 131 は、物体側から像面側へと順に、物体側に凸面を向けた負メニスカス形状のレンズ素子 L_1 と、両面が非球面で形成されて両凹形状のレンズ素子 L_2 と、両凹形状のレンズ素子 L_3 と、物体側の面が非球面で形成されて両凸形状のレンズ素子 L_4 と、開口絞り A と、物体側の面が非球面で形成されて両凸形状のレンズ素子 L_5 と、像面側の面が非球面で形成されて像面側に凸面を向けた負メニスカス形状のレンズ素子 L_6 と、両凸形状のレンズ素子 L_7 とからなる。レンズ素子 L_5 とレンズ素子 L_6 は接合されている。ここで、レンズ素子 L_1 は第1レンズ素子の一例であり、レンズ素子 L_2 は第2レンズ素子の一例である。

[0024] レンズ系 131 において、レンズ素子 L_3 は、物体側の面が XY 多項式の自由曲面であり、像面側の面が非球面である。レンズ素子 L_7 は、物体側と像面側の両面が XY 多項式の自由曲面である。図3において、自由曲面に*

印を付している。ここで、レンズ素子 L_3 は第1自由曲面レンズの一例であり、レンズ素子 L_7 は第2自由曲面レンズの一例である。

[0025] レンズ素子 L_7 の物体側の自由曲面の、光軸から最短像高の30%以上の長さ離れた円におけるサグ量が、光軸を通り撮像素子102の長辺短辺に平行な XZ 面（第1面）及び光軸を通り撮像素子102の短辺に平行な YZ 面（第2面）との交点以外に極値を有している。

[0026] （実施の形態1～3の共通の構成）

実施の形態1～3に係るレンズ系は、複数枚のレンズ素子を有し、短辺と長辺を有する矩形の撮像素子102に結像させる。そして、レンズ系は、レンズ素子として光軸に対して回転非対称である自由曲面レンズを含み、物体側から像面側へと順に、複数枚のレンズ素子、開口絞り、複数枚のレンズ素子を備えている。この構成により、矩形に近い略矩形の像を結像することが可能となる。

[0027] また、実施の形態1～3に係るレンズ系は、光軸に対して回転対称なレンズ素子を少なくとも3つ以上有する構成をしている。この構成により、自由曲面レンズの枚数を少なくし、方向による性能の偏りを小さくすることができる。さらに、実施の形態1～3に係るレンズ系は、設計時に計算時間を短縮できるという利点もある。

[0028] 実施の形態1～3に係るレンズ系を構成する自由曲面レンズの全ての自由曲面は、 XZ 面及び YZ 面に対してそれぞれ対称な形状を有しており、自由曲面の中心を判別できるので、製造時に形状の管理がしやすくてという利点がある。

[0029] 実施の形態1～3に係るレンズ系において、物体側から順に、物体側に凸形状の負のパワーを有するメニスカスであるレンズ素子 L_1 、負のパワーを有するレンズ素子 L_2 を有する構成をしている。この構成により、広い角度で入射する光を集めることができるので、レンズ系を広角化しやすく、負レンズを2枚連続されることでそれぞれのパワーを小さくすることができ、製造しやすい形状にすることができるという利点がある。

- [0030] 実施の形態 1 ～ 3 に係るレンズ系は、最も像面側にある自由曲面レンズは物体側と像面側の両面が自由曲面の構成をしているので、像高の位置制御と収差低減が行いやすくなるという利点がある。
- [0031] 実施の形態 1 ～ 3 に係るレンズ系は、半画角が 80° 以上の魚眼レンズであるので、広い画角をカバーすることができる。また、一般に魚眼レンズの場合には、撮像素子の対角付近において結像することが難しい。しかしながら、本開示に係る自由曲面レンズを用いることで、撮像素子の対角付近においても結像することが可能となる。
- [0032] 例えば、実施の形態 1 ～ 3 に係るレンズ系のように、光軸に配置された矩形の撮像素子に結像するレンズ系であって、光軸に対して非対称である自由曲面レンズを備えるレンズ系は、光軸から最短像高の 40% 以上の長さ離れた円における自由曲面レンズの自由曲面のサグ量が、光軸を通り撮像素子の長辺に平行な XZ 面及び光軸を通り撮像素子の短辺に平行な YZ 面との交点以外に極値を有することが好ましい（以下、この構成を実施の形態の基本構成という）。
- [0033] ここで、最短像高とは、撮像素子 102 に垂直に入射する光線による像点と、レンズ系が形成するイメージサークルの端までの像面上の距離のうち、最短のものを示す。実施の形態 1 ～ 3 に係るレンズ系においては、撮像素子 102 の短辺方向に最短像高を有する。
- [0034] 自由曲面レンズの面のサグ量が XZ 面及び YZ 面との交点以外に極値を有することで、特に撮像素子 102 の対角付近の方向に像を拡大しやすくなる。極値を有する光軸からの範囲は、径方向に最短像高の 40% 以上の長さ離れたところであることで、良好な像の拡大効果が得られる。本実施の形態の基本構成とは異なり、最短像高の 40% 以上の長さ離れた円におけるサグ量が、光軸を通り撮像素子の長辺及び短辺に平行な XZ 面及び YZ 面との交点以外に極値を有する自由曲面を備えない場合、矩形の撮像素子の感光面の領域を十分に活用できない。あるいは、レンズ素子の枚数が増加し、レンズ系の大型化を招くこととなってしまう。なお、光軸から最短像高の 40% ～ 8

0%の長さ離れた円における自由曲面のサグ量が、XZ面及びYZ面との交点以外に極値を有する場合、上記の効果をさらに奏功させることができる。

[0035] 撮像素子の感光面の領域を有効に活用するためのサグ量の極値の位置について説明する。図4は、撮像素子の感光面の概要図である。図4において、撮像素子102のレンズ系側の全面が感光面であるとしている。或いは、撮像素子102の周囲に感光面でない部位がある場合は、その部位を取り除いた状態とする。また、図4において、レンズ系の光軸と撮像素子102の感光面との交点Oを撮像素子102の感光面の中心としている。

[0036] 交点O（感光面の中心）から撮像素子102の角部C1～C4へのそれぞれの方向にサグ量の極値があるとき、撮像素子102の感光面の領域を最も有効に活用することができる。そして、角度 $\theta \pm 25^\circ$ の範囲であれば、略矩形の像を結像することができる。ここで、角度 θ は、図4に示すように、交点Oと角部C1を結ぶ線分OC1がX軸となす角度である。図4では、線分OC1が位置する第一象限について角度 θ を示しているが、自由曲面レンズの自由曲面はXZ面及びYZ面についてそれぞれ対称であるので、線分OC2、OC3、OC4がそれぞれ位置する第二～四象限についても同様である。

[0037] 図5は、実施の形態1に係るレンズ系111のレンズ素子L8の像面側の自由曲面のサグ量と、光軸から最短像高の60%の長さ離れた円における光軸周りの角度（位相）との関係を示している。図6は、実施の形態2に係るレンズ系121のレンズ素子L8の像面側の自由曲面のサグ量と、光軸から最短像高の60%の長さ離れた円における光軸周りの角度（位相）との関係を示している。図7は、実施の形態3に係るレンズ系131のレンズ素子L7の物体側の自由曲面のサグ量と、光軸から最短像高の60%の長さ離れた円における光軸周りの角度（位相）との関係を示している。図5～7では、光軸から最短像高の60%の長さ離れた円の全周（即ち、第一～第四象限）におけるサグ量を示している。

[0038] 図5～7に示すように、第一象限（位相 $0^\circ \sim 90^\circ$ ）と第三象限（位相

180°～270°)に示されるサグ量は同一であり、第二象限(位相90°～180°)と第四象限(位相270°～360°)に示されるサグ量は同一である。また、第一象限と第二象限とに示されるサグ量は位相90°について対称であり、第二象限と第三象限とに示されるサグ量は位相180°について対称であり、第三象限と第四象限とに示されるサグ量は位相270°について対称であり、第四象限と第一象限とに示されるサグ量は位相360°について対称である。ここで、位相0°、180°は、光軸を通り撮像素子102の長辺に平行なXZ面(第1面)の位置に対応し、位相90°、270°は、光軸を通り撮像素子102の短辺に平行なYZ面(第2面)の位置に対応する。

[0039] 図5～7に示すレンズ系111、121、131におけるサグ量の第一象限の極値は、それぞれ位相約38°、約49°、約42°である。このように、実施の形態1～3におけるレンズ系は、光軸と撮像素子102の感光面との交点Oから感光面の角部C1～C4へのそれぞれの方向に対して±25°の範囲にサグ量の極値を有するように、設計される。以下、第一象限における角度θについて説明するが、第二～四象限についても同様である。

[0040] レンズ系は、例えば、撮像素子102の感光面の長辺と短辺のアスペクト比によって以下のように設計される。撮像素子102の感光面の長辺と短辺の比がa対bであるとき、撮像素子102の長辺と平行な方向(X方向)に対して $\tan^{-1}(b/a) \pm 25^\circ$ の範囲にサグ量の極値を有する。例えば、撮像素子102の長辺と短辺の比が16対9であるとき、位相 $29 \pm 25^\circ$ の範囲にサグ量の極値を有する。撮像素子102の長辺と短辺の比が4対3であるとき、X方向からの位相が $37 \pm 25^\circ$ の範囲にサグ量の極値を有する。

[0041] また、X方向に対して範囲 $29 \pm 25^\circ$ と範囲 $37 \pm 25^\circ$ の共通範囲となる、X方向に対して $33 \pm 21^\circ$ の範囲にサグ量の極値を有するレンズ系は、アスペクト比が16対9及び4対3の撮像素子の両方に使用することができる。

[0042] サグ量が極値を有するということは光軸から所定の距離離れた円上でサグ量が反転するということであるが、該円上での最大サグ量の少なくとも3%は反転していることが好ましい。このような自由曲面を有するレンズを作製することは困難であったが、近年の加工・成型技術の進歩に伴い、作製できるようになってきた。

[0043] また、例えば、実施の形態1～3に係るレンズ系のように、本実施の形態の基本構成を有するレンズ系は、以下の条件(1)を満足することが好ましい。

$$[0044] \quad \omega_{\text{LONG}} > 60^\circ \quad \dots (1)$$

ここで、

ω_{LONG} : 撮像素子の長辺方向の最大半画角

条件(1)は、レンズ系の半画角を規定するための条件である。条件(1)の下限を下回ると、レンズ系の画角が狭くなり、本実施の形態の基本構成を有しなくともイメージサークルが矩形に近くでき、矩形の撮像素子102の感光面の領域を有効活用しやすくなり、本願の意図と乖離してくる。また、球面収差の制御が困難となる。

[0045] なお、更に以下の条件(1)'及び(1)''の少なくとも一つを満足することにより、前記効果をさらに奏功させることができる。

$$[0046] \quad \omega_{\text{LONG}} > 80^\circ \quad \dots (1)'$$

$$\omega_{\text{LONG}} > 90^\circ \quad \dots (1)''$$

例えば、実施の形態1～3に係るレンズ系のように、本実施の形態の基本構成を有するレンズ系は、以下の条件(2)を満足することが好ましい。

$$[0047] \quad 1 < D_{\text{LSHORT}} / D_{\text{SSHORT}} \quad \dots (2)$$

ここで、

D_{LSHORT} : 撮像素子の短辺方向の最大半画角と等しい画角の、撮像素子の長辺方向の入射光に対する像点と、撮像素子に垂直な入射光に対する像点との長辺方向の最大距離

D_{SSHORT} : 撮像素子の短辺方向の最大半画角の入射光に対する像点と撮

像素子に垂直な入射光に対する像点との短辺方向の最大距離

条件（２）は、撮像素子の短辺方向の最大半画角の入射光に対する像点について、撮像素子の短辺方向の像高よりも、長辺方向の像高の方が長くなることを規定するための条件である。条件（２）の下限を下回ると、矩形の撮像素子 102 の感光面の領域の有効活用が困難になる。または、像面湾曲の制御が困難になる。

[0048] なお、更に以下の条件（２）' 及び（２）' ' の少なくとも一つを満足することにより、前記効果をさらに奏功させることができる。

[0049] $1.2 < D_{L\text{SHORT}} / D_{S\text{SHORT}} \dots (2)'$

$1.6 < D_{L\text{SHORT}} / D_{S\text{SHORT}} \dots (2)''$

例えば、実施の形態 1～3 に係るレンズ系のように、本実施の形態の基本構成を有するレンズ系は、以下の条件（３）を満足することが好ましい。

[0050] $0.5 < D_{S\text{SHORT}} \times \omega_{L\text{LONG}} / (D_{L\text{LONG}} \times \omega_{S\text{SHORT}}) < 1 \dots (3)$

ここで、

$\omega_{L\text{LONG}}$ ：撮像素子の長辺方向の最大半画角

$\omega_{S\text{SHORT}}$ ：撮像素子の短辺方向の最大半画角

$D_{L\text{LONG}}$ ：撮像素子の長辺方向の最大半画角の入射光に対する像点と撮像素子に垂直な入射光に対する像点との長辺方向の最大距離

$D_{S\text{SHORT}}$ ：撮像素子の短辺方向の最大半画角の入射光に対する像点と撮像素子に垂直な入射光に対する像点との短辺方向の最大距離

条件（３）は、撮像素子の短辺方向と長辺方向の、最大半画角と像高の比を規定するための条件である。条件（３）の下限を下回ると、短辺方向の画角が長辺方向の画角に比較して広くなりすぎ、結像性能、特に像面湾曲の制御が困難になる。あるいはイメージサークルが長辺方向に長くなりすぎ、矩形の撮像素子 102 の感光面の領域の有効活用が困難になる。条件（３）の上限を上回ると、長辺方向の画角が短辺方向の画角に比較して広くなりすぎ、結像性能、特に像面湾曲の制御が困難になる。あるいはイメージサークル

が短辺方向に長くなりすぎ、矩形の撮像素子 102 の感光面の領域の有効活用が困難になる。

[0051] なお、更に以下の条件 (3)' 及び (3)'' の少なくとも一つを満足することにより、前記効果をさらに奏功させることができる。

[0052] $0.55 < D_{SSHORT} \times \omega_{LONG} / (D_{LLONG} \times \omega_{SHORT}) < 0.9 \dots$
 $\cdot (3)'$

$0.6 < D_{SSHORT} \times \omega_{LONG} / (D_{LLONG} \times \omega_{SHORT}) < 0.8 \dots$
 $\cdot (3)''$

例えば、実施の形態 1～3 に係るレンズ系のように、本実施の形態の基本構成を有するレンズ系は、以下の条件 (4) を満足することが好ましい。

[0053] $\omega_{LONG} - \omega_{SHORT} > 0 \dots (4)$

ここで、

ω_{LONG} : 撮像素子の長辺方向の最大半画角

ω_{SHORT} : 撮像素子の短辺方向の最大半画角

条件 (4) は、最大半画角について、撮像素子の長辺方向と短辺方向の差を規定する条件である。条件 (4) の下限を下回ると、短辺方向の画角が長辺方向の画角に比較して等しい、あるいは大きくなってしまい、極めていびつな形状で結像してしまうことになり、画角あたりの解像度が長辺方向と短辺方向で大きく変わってしまう。また、球面収差が長辺方向と短辺方向で大きく変化してしまい、制御が困難になる。

[0054] なお、更に以下の条件 (4)' を満足することにより、前記効果をさらに奏功させることができる。

[0055] $\omega_{LONG} - \omega_{SHORT} > 8 \dots (4)'$

例えば、実施の形態 1～3 に係るレンズ系のように、本実施の形態の基本構成を有するレンズ系は、以下の条件 (5) を満足することが好ましい。

[0056] $L \times F_{no.} / D_{LLONG} < 40 \dots (5)$

ここで、

L : レンズ系の光学全長

$F_{no.}$: レンズ系の F 値

D_{LLONG} : 撮像素子の長辺方向の最大半画角の入射光に対する像点と撮像素子に垂直な入射光に対する像点との長辺方向の最大距離

条件 (5) は、レンズ系の光学全長とレンズ系の F 値、長辺方向の像高の関係を規定する条件である。条件 (5) の上限を上回ると、レンズ系の F 値、イメージサークルに対してレンズ系が肥大化しすぎ、小型化を達成できず、加えて像面湾曲の制御が困難となる。

[0057] なお、更に以下の条件 (5)' 及び (5)'' の少なくとも一つを満足することにより、前記効果をさらに奏功させることができる。

[0058] $L \times F_{no.} / D_{LLONG} < 30 \quad \dots (5)'$

$L \times F_{no.} / D_{LLONG} < 25 \quad \dots (5)''$

例えば、実施の形態 1～3 に係るレンズ系のように、本実施の形態の基本構成を有するレンズ系は、以下の条件 (6) を満足することが好ましい。

[0059] $n_{FREE} < 1.7 \quad \dots (6)$

ここで、

n_{FREE} : 自由曲面レンズの d 線に対する屈折率

条件 (6) は、自由曲面レンズの d 線に対する屈折率を規定する条件である。条件 (6) の上限を上回ると、自由曲面レンズの屈折率が高くなりすぎ、急激に光線を曲げることから非点収差の制御が困難になる。なお、本条件はレンズ系の中の 1 枚の自由曲面レンズが満足していても効果を得られるし、複数枚の自由曲面レンズが満足している場合は、さらに効果を奏功させることができる。

[0060] なお、更に以下の条件 (6)' を満足することにより、前記効果をさらに奏功させることができる。

[0061] $n_{FREE} < 1.6 \quad \dots (6)'$

例えば、実施の形態 1～3 に係るレンズ系のように、本実施の形態の基本構成を有するレンズ系は、物体と撮像素子との間に開口絞り A を有し、以下の条件 (7) を満足することが好ましい。

[0062] $-3 \leq N_o - N_i \leq 3 \quad \cdots (7)$

ここで、

N_o : 開口絞りよりも物体側のレンズ素子の枚数

N_i : 開口絞りよりも像面側のレンズ素子の枚数

条件(7)は、開口絞りA前後のレンズ素子の枚数差を規定する条件である。条件(7)の下限を下回ると、開口絞りAよりも像面側のレンズ素子の枚数が増えすぎ、レンズ系の光軸方向の大型化を招いてしまう。また、開口絞りAよりも物体側のレンズ素子の枚数が少なく、像面湾曲の制御が困難となる。条件(7)の上限を上回ると、開口絞りAよりも物体側のレンズ素子の枚数が増えすぎ、レンズ系の径方向への大型化を招いてしまう。また、開口絞りAよりも像面側のレンズ素子の枚数が少なく、球面収差の制御が困難となる。

[0063] なお、更に以下の条件(7)'を満足することにより、前記効果をさらに奏功させることができる。

[0064] $-2 \leq N_o - N_i \leq 2 \quad \cdots (7)'$

例えば、実施の形態1～3に係るレンズ系のように、本実施の形態の基本構成を有するレンズ系は、物体と撮像素子102との間に開口絞りAを有し、開口絞りAより物体側に少なくとも1枚の第1自由曲面レンズを有し、開口絞りAより像面側に少なくとも1枚の第2自由曲面レンズを有することが好ましい。本構成を採ることで、長辺方向、短辺方向、対角方向、いずれの方向でも像面湾曲を小さくすることができるという利点がある。

[0065] 例えば、実施の形態1～3に係るレンズ系のように、本実施の形態の基本構成を有するレンズ系は、レンズ系のイメージサークルが撮像素子102で包含されないことが好ましい。特に、自由曲面レンズを使用したレンズ系ではイメージサークルの端付近での解像度を確保することが設計上、ものづくり上困難であるため、イメージサークルが撮像素子102で包含されないようにすることで撮像素子102上で良好な結像性能を確保することが可能となる。

[0066] 実施の形態１～３に係るレンズ系を構成している各レンズ素子は、入射光線を屈折により偏向させる屈折型レンズ素子（すなわち、異なる屈折率を有する媒質同士の界面で偏向が行われるタイプのレンズ素子）のみで構成されているが、これに限定されるものではない。例えば、回折により入射光線を偏向させる回折型レンズ素子、回折作用と屈折作用との組み合わせで入射光線を偏向させる屈折・回折ハイブリッド型レンズ素子、入射光線を媒質内の屈折率分布により偏向させる屈折率分布型レンズ素子等で、各レンズ系を構成してもよい。特に、屈折・回折ハイブリッド型レンズ素子において、屈折率の異なる媒質の界面に回折構造を形成すると、回折効率の波長依存性が改善されるので、好ましい。

[0067] 実施の形態１～３に係るレンズ系を構成している各レンズは、撮像素子１０２の長辺あるいは短辺に対して対称な面を有しているが、非対称な面を使用した場合でも、本実施の形態の基本構成や、各条件を満足していれば、十分な効果を得られる。

[0068] （実施の形態４）

図８は実施の形態４に係るカメラシステムの概略構成図である。実施の形態４に係るカメラシステム１００は、レンズ系１１１と、レンズ系１１１によって形成される光学像を受光して、電気的な画像信号に変換する撮像素子１０２と、カメラ本体１０３を含む。実施の形態４のレンズ系は、実施の形態１～３いずれかに係るレンズ系を用いることができる。図８は、レンズ系として実施の形態１に係るレンズ系１１１を用いた場合を図示している。

[0069] 実施の形態４では、実施の形態１～３いずれかに係るレンズ系を用いているので、撮像素子１０２に略矩形の像を結像させることができ、矩形の撮像素子１０２の感光面の領域を有効活用した画像を得ることができるカメラシステム１００を実現することができる。

[0070] （実施の形態５）

図９は実施の形態５に係る撮像システムの概略構成図である。実施の形態５に係る撮像システム２００に用いられている撮像光学系２０１は、実施の

形態４のカメラシステム１００のように、実施の形態１～３いずれかに係るレンズ系を含んでいる。撮像光学系２０１で得られた画像を、画像処理部２０２で処理することで、さまざまなアプリケーションに応用可能な画像に変形、加工することが可能となる。なお、画像処理部２０２はカメラ本体１０３（図８参照）の内部または外部のどちらにあっても良い。

[0071] （数値実施例１）

以下、実施の形態１に係るレンズ系１１１を具体的に実施した数値実施例１を説明する。なお、数値実施例１において、図や表中の長さの単位は「mm」であり、画角の単位は「°」である。また、数値実施例１において、曲率半径 r 、面間隔 d 、 d 線に対する屈折率 n_d 、 d 線に対するアッペ数 ν_d を示す。非球面及び自由曲面の Z 軸に平行な面のサグ量 z はそれぞれ、数式１及び数式２で定義している。

[0072] [数１]

$$z = \frac{h^2 / r}{1 + \sqrt{1 - (1 + \kappa)(h/r)^2}} + \sum A_n h^n$$

[0073] ここで

h : 径方向の高さ

κ : コーニク定数

A_n : n 次の非球面係数

[0074] [数２]

$$z = \frac{cr^2}{1 + \sqrt{1 - (1 + k)c^2r^2}} + \sum_{j=2}^{66} c_j x^p y^q$$

$$j = \frac{(p + q)^2 + p + 3q}{2} + 1$$

[0075] ここで

c : 頂点曲率

k : コーニック定数

c_j : 係数

図10は、数値実施例1に係るレンズ系111の無限遠合焦状態の球面収差図及び非点収差図であり、左側から順に、撮像素子102の短辺方向の球面収差(SA)、非点収差(AST-V)、撮像素子102の長辺方向の非点収差(AST-H)、対角方向の非点収差(AST-D)を示す。球面収差の図において、横軸は球面収差を、縦軸は瞳高さを表している。そして、実線はd線、短破線はC線、長破線はF線の特性である。非点収差の図において、横軸は非点収差を、縦軸は画角を表している。そして、実線はYZ平面(図中、y方向)、破線はXZ平面(図中、x方向)の特性である。

[0076] なお、実施の形態1はXY多項式の x 及び y の偶数項のみを使用しているので、 x 軸と y 軸に対して対称なので対角方向の非点収差AST-Dはどの方向でも同じになる。

[0077] 図11は、数値実施例1に係るレンズ系111の無限遠合焦状態の画角と像点の関係を示した図である。図11は、光軸を原点(0, 0)として像面の第一象限において、画角の10°毎に像点をプロットしている。他の象限については、第一象限との間で、縦軸、横軸に対して線対称となるような関係を有する。通常の回転対称レンズに比較して、像面の形状が拡大され、矩形の撮像素子102の感光面の領域を有効活用できていることが分かる。

[0078] 数値実施例1のレンズ系111は、図1に示した実施の形態1に対応する。数値実施例1のレンズ系111の面データを表1に、各種データを表2に、第5面、第6面、第9面、第10面、第15面、および第16面の非球面・自由曲面データをそれぞれ表3、表4、表5、表6、表7および表8に示す。

[0079]

[表1]

s	面のタイプ	r	d	nd	vd
1	球面	16.180	1.000	1.72916	54.7
2	球面	5.450	3.291		
3	球面	-42.838	0.800	1.77250	49.6
4	球面	3.975	2.580		
5	XY多項式面	-5.534	2.000	1.49176	57.5
6	XY多項式面	22.705	0.400		
7	球面	16.681	1.500	1.80518	25.4
8	球面	-21.386	0.150		
9	非球面	3.354	1.700	1.49176	57.5
10	非球面	14.169	1.083		
11	平面	絞り	0.150		
12	球面	12.980	2.370	1.59522	67.7
13	球面	-3.270	0.700	1.95906	17.5
14	球面	-7.511	1.380		
15	XY多項式面	3.672	1.800	1.49176	57.5
16	XY多項式面	6.963	3.565		

[0080] [表2]

Fナンバー	2.73
垂直半画角	82°
水平半画角	92°
垂直像高@垂直半画角	1.687
水平像高@水平半画角	2.977
水平像高@垂直半画角	2.841
光学全長	24.470

[0081]

[表3]

s5					
C1	1.00000E+00	C23	0.00000E+00	C45	-3.70249E-04
C2	0.00000E+00	C24	2.32779E-03	C46	0.00000E+00
C3	0.00000E+00	C25	0.00000E+00	C47	0.00000E+00
C4	8.62090E-02	C26	1.27010E-03	C48	0.00000E+00
C5	0.00000E+00	C27	0.00000E+00	C49	0.00000E+00
C6	-2.36648E-01	C28	-1.65516E-04	C50	0.00000E+00
C7	0.00000E+00	C29	0.00000E+00	C51	0.00000E+00
C8	0.00000E+00	C30	0.00000E+00	C52	0.00000E+00
C9	0.00000E+00	C31	0.00000E+00	C53	0.00000E+00
C10	0.00000E+00	C32	0.00000E+00	C54	0.00000E+00
C11	-3.77420E-03	C33	0.00000E+00	C55	0.00000E+00
C12	0.00000E+00	C34	0.00000E+00	C56	-6.79600E-06
C13	1.35286E-02	C35	0.00000E+00	C57	0.00000E+00
C14	0.00000E+00	C36	0.00000E+00	C58	-2.00377E-05
C15	-1.43532E-02	C37	9.02054E-06	C59	0.00000E+00
C16	0.00000E+00	C38	0.00000E+00	C60	-3.45106E-05
C17	0.00000E+00	C39	-6.93764E-05	C61	0.00000E+00
C18	0.00000E+00	C40	0.00000E+00	C62	-1.58142E-04
C19	0.00000E+00	C41	6.68648E-05	C63	0.00000E+00
C20	0.00000E+00	C42	0.00000E+00	C64	-3.69648E-04
C21	0.00000E+00	C43	5.41051E-04	C65	0.00000E+00
C22	4.24027E-04	C44	0.00000E+00	C66	3.33129E-04

[0082]

[表4]

s6

C1	0.00000E+00	C23	0.00000E+00	C45	6.79574E-05
C2	0.00000E+00	C24	3.72605E-03	C46	0.00000E+00
C3	0.00000E+00	C25	0.00000E+00	C47	0.00000E+00
C4	3.60937E-02	C26	3.01762E-03	C48	0.00000E+00
C5	0.00000E+00	C27	0.00000E+00	C49	0.00000E+00
C6	-1.09902E-01	C28	9.09772E-04	C50	0.00000E+00
C7	0.00000E+00	C29	0.00000E+00	C51	0.00000E+00
C8	0.00000E+00	C30	0.00000E+00	C52	0.00000E+00
C9	0.00000E+00	C31	0.00000E+00	C53	0.00000E+00
C10	0.00000E+00	C32	0.00000E+00	C54	0.00000E+00
C11	-7.77248E-03	C33	0.00000E+00	C55	0.00000E+00
C12	0.00000E+00	C34	0.00000E+00	C56	1.25389E-06
C13	-1.67316E-04	C35	0.00000E+00	C57	0.00000E+00
C14	0.00000E+00	C36	0.00000E+00	C58	-1.56641E-05
C15	-9.60440E-04	C37	-1.26271E-04	C59	0.00000E+00
C16	0.00000E+00	C38	0.00000E+00	C60	-4.94111E-05
C17	0.00000E+00	C39	-2.69927E-04	C61	0.00000E+00
C18	0.00000E+00	C40	0.00000E+00	C62	-5.55090E-05
C19	0.00000E+00	C41	-2.30127E-04	C63	0.00000E+00
C20	0.00000E+00	C42	0.00000E+00	C64	-7.32391E-05
C21	0.00000E+00	C43	-5.50409E-05	C65	0.00000E+00
C22	1.51405E-03	C44	0.00000E+00	C66	-5.89790E-06

[0083] [表5]

s9

K	-1.00000E+00
A4	1.46543E-04
A6	8.27051E-04
A8	5.32119E-05
A10	7.88739E-07
A12	0.00000E+00
A14	0.00000E+00
A16	0.00000E+00
A18	0.00000E+00
A20	0.00000E+00

[0084] [表6]

s10

K	0.00000E+00
A4	2.48173E-03
A6	-3.56816E-05
A8	4.54625E-04
A10	-4.02723E-05
A12	0.00000E+00
A14	0.00000E+00
A16	0.00000E+00
A18	0.00000E+00
A20	0.00000E+00

[0085] [表7]

s15

C1	0.00000E+00	C23	0.00000E+00	C45	-4.37885E-05
C2	0.00000E+00	C24	-4.48983E-04	C46	0.00000E+00
C3	0.00000E+00	C25	0.00000E+00	C47	0.00000E+00
C4	-1.35833E-02	C26	4.22990E-04	C48	0.00000E+00
C5	0.00000E+00	C27	0.00000E+00	C49	0.00000E+00
C6	1.58217E-02	C28	-6.89639E-04	C50	0.00000E+00
C7	0.00000E+00	C29	0.00000E+00	C51	0.00000E+00
C8	0.00000E+00	C30	0.00000E+00	C52	0.00000E+00
C9	0.00000E+00	C31	0.00000E+00	C53	0.00000E+00
C10	0.00000E+00	C32	0.00000E+00	C54	0.00000E+00
C11	-5.73414E-03	C33	0.00000E+00	C55	0.00000E+00
C12	0.00000E+00	C34	0.00000E+00	C56	-4.23355E-06
C13	4.06591E-04	C35	0.00000E+00	C57	0.00000E+00
C14	0.00000E+00	C36	0.00000E+00	C58	7.83237E-06
C15	-6.52448E-03	C37	-3.48081E-05	C59	0.00000E+00
C16	0.00000E+00	C38	0.00000E+00	C60	1.94777E-05
C17	0.00000E+00	C39	-1.47712E-04	C61	0.00000E+00
C18	0.00000E+00	C40	0.00000E+00	C62	-3.43515E-05
C19	0.00000E+00	C41	-3.39200E-04	C63	0.00000E+00
C20	0.00000E+00	C42	0.00000E+00	C64	6.65521E-06
C21	0.00000E+00	C43	2.21761E-05	C65	0.00000E+00
C22	-2.00409E-04	C44	0.00000E+00	C66	-1.52826E-05

[0086] [表8]

s16

C1	0.00000E+00	C23	0.00000E+00	C45	1.55068E-06
C2	0.00000E+00	C24	2.80139E-04	C46	0.00000E+00
C3	0.00000E+00	C25	0.00000E+00	C47	0.00000E+00
C4	2.27047E-02	C26	9.60494E-04	C48	0.00000E+00
C5	0.00000E+00	C27	0.00000E+00	C49	0.00000E+00
C6	3.99957E-02	C28	-1.85346E-03	C50	0.00000E+00
C7	0.00000E+00	C29	0.00000E+00	C51	0.00000E+00
C8	0.00000E+00	C30	0.00000E+00	C52	0.00000E+00
C9	0.00000E+00	C31	0.00000E+00	C53	0.00000E+00
C10	0.00000E+00	C32	0.00000E+00	C54	0.00000E+00
C11	-4.30563E-03	C33	0.00000E+00	C55	0.00000E+00
C12	0.00000E+00	C34	0.00000E+00	C56	6.26478E-06
C13	2.26638E-02	C35	0.00000E+00	C57	0.00000E+00
C14	0.00000E+00	C36	0.00000E+00	C58	2.99932E-05
C15	-1.01597E-02	C37	-1.18934E-04	C59	0.00000E+00
C16	0.00000E+00	C38	0.00000E+00	C60	5.70767E-05
C17	0.00000E+00	C39	-4.08088E-04	C61	0.00000E+00
C18	0.00000E+00	C40	0.00000E+00	C62	-1.16918E-05
C19	0.00000E+00	C41	-6.35989E-04	C63	0.00000E+00
C20	0.00000E+00	C42	0.00000E+00	C64	-5.62801E-06
C21	0.00000E+00	C43	-1.36403E-04	C65	0.00000E+00
C22	8.46224E-06	C44	0.00000E+00	C66	1.05199E-05

[0087] (数値実施例2)

図12は、数値実施例2に係るレンズ系121の無限遠合焦状態の球面収差図及び非点収差図である。また、図13は、数値実施例2に係るレンズ系121の無限遠合焦状態の画角と像点の関係を示した図である。図13に示すレンズ系121の場合も、通常の回転対称レンズに比較して、像面の形状が拡大され、矩形の撮像素子102の感光面の領域を有効活用できていることが分かる。数値実施例2のレンズ系121は、図2に示した実施の形態2に対応する。数値実施例2のレンズ系121の面データを表9に、各種データを表10に、第5面、第6面、第9面、第10面、第15面、および第16面の非球面・自由曲面データをそれぞれ表11、表12、表13、表14

、表 1 5 および表 1 6 に示す。

[0088] [表9]

s	面のタイプ	r	d	nd	vd
1	球面	12.146	1.000	1.72916	54.7
2	球面	6.000	3.132		
3	球面	-63.845	0.800	1.72916	54.7
4	球面	3.118	2.388		
5	XY多項式面	-4.986	2.000	1.49176	57.5
6	XY多項式面	15.806	0.429		
7	球面	17.9397	1.500	1.80610	40.9
8	球面	-12.577	0.150		
9	非球面	2.800	1.700	1.49176	57.5
10	非球面	3.914	1.256		
11	平面	絞り	0.150		
12	球面	5.525	3.096	1.59522	67.7
13	球面	-3.672	0.600	1.95906	17.5
14	球面	-9.084	0.922		
15	XY多項式面	5.053	1.600	1.49176	57.5
16	XY多項式面	142.714	3.366		

[0089] [表10]

Fナンバー	2.62
垂直半画角	82°
水平半画角	92°
垂直像高@垂直半画角	1.689
水平像高@水平半画角	2.980
水平像高@垂直半画角	2.852
光学全長	24.090

[0090]

[表11]

s5					
C1	1.00000E+00	C23	0.00000E+00	C45	-1.86517E-04
C2	0.00000E+00	C24	1.80561E-03	C46	0.00000E+00
C3	0.00000E+00	C25	0.00000E+00	C47	0.00000E+00
C4	9.82210E-02	C26	-1.00004E-03	C48	0.00000E+00
C5	0.00000E+00	C27	0.00000E+00	C49	0.00000E+00
C6	-2.39764E-01	C28	2.52224E-04	C50	0.00000E+00
C7	0.00000E+00	C29	0.00000E+00	C51	0.00000E+00
C8	0.00000E+00	C30	0.00000E+00	C52	0.00000E+00
C9	0.00000E+00	C31	0.00000E+00	C53	0.00000E+00
C10	0.00000E+00	C32	0.00000E+00	C54	0.00000E+00
C11	-2.60552E-03	C33	0.00000E+00	C55	0.00000E+00
C12	0.00000E+00	C34	0.00000E+00	C56	-1.78179E-06
C13	1.97713E-02	C35	0.00000E+00	C57	0.00000E+00
C14	0.00000E+00	C36	0.00000E+00	C58	5.50349E-06
C15	-3.46932E-03	C37	5.85414E-06	C59	0.00000E+00
C16	0.00000E+00	C38	0.00000E+00	C60	5.98934E-07
C17	0.00000E+00	C39	-9.46390E-05	C61	0.00000E+00
C18	0.00000E+00	C40	0.00000E+00	C62	-1.08733E-04
C19	0.00000E+00	C41	3.40232E-04	C63	0.00000E+00
C20	0.00000E+00	C42	0.00000E+00	C64	-7.09955E-05
C21	0.00000E+00	C43	1.38751E-04	C65	0.00000E+00
C22	5.65340E-04	C44	0.00000E+00	C66	1.03808E-04

[0091]

[表12]

s6					
C1	0.00000E+00	C23	0.00000E+00	C45	-3.42007E-05
C2	0.00000E+00	C24	3.24024E-03	C46	0.00000E+00
C3	0.00000E+00	C25	0.00000E+00	C47	0.00000E+00
C4	4.36756E-02	C26	2.20941E-03	C48	0.00000E+00
C5	0.00000E+00	C27	0.00000E+00	C49	0.00000E+00
C6	-1.08803E-01	C28	8.02693E-04	C50	0.00000E+00
C7	0.00000E+00	C29	0.00000E+00	C51	0.00000E+00
C8	0.00000E+00	C30	0.00000E+00	C52	0.00000E+00
C9	0.00000E+00	C31	0.00000E+00	C53	0.00000E+00
C10	0.00000E+00	C32	0.00000E+00	C54	0.00000E+00
C11	-9.69054E-03	C33	0.00000E+00	C55	0.00000E+00
C12	0.00000E+00	C34	0.00000E+00	C56	6.00027E-06
C13	-1.00811E-03	C35	0.00000E+00	C57	0.00000E+00
C14	0.00000E+00	C36	0.00000E+00	C58	1.56463E-05
C15	1.10290E-03	C37	-1.64068E-04	C59	0.00000E+00
C16	0.00000E+00	C38	0.00000E+00	C60	1.94011E-05
C17	0.00000E+00	C39	-4.22454E-04	C61	0.00000E+00
C18	0.00000E+00	C40	0.00000E+00	C62	2.07297E-05
C19	0.00000E+00	C41	-4.43373E-04	C63	0.00000E+00
C20	0.00000E+00	C42	0.00000E+00	C64	1.00502E-05
C21	0.00000E+00	C43	-3.51086E-04	C65	0.00000E+00
C22	1.66097E-03	C44	0.00000E+00	C66	3.26489E-06

[0092]

[表13]

s9

K	-1.00000E+00
A4	1.53994E-03
A6	1.18079E-03
A8	-1.21875E-04
A10	2.44032E-05
A12	0.00000E+00
A14	0.00000E+00
A16	0.00000E+00
A18	0.00000E+00
A20	0.00000E+00

[0093] [表14]

s10

K	0.00000E+00
A4	4.82378E-03
A6	3.63028E-04
A8	3.22947E-04
A10	3.85786E-05
A12	0.00000E+00
A14	0.00000E+00
A16	0.00000E+00
A18	0.00000E+00
A20	0.00000E+00

[0094]

[表15]

s15

C1	0.00000E+00	C23	0.00000E+00	C45	-5.37771E-05
C2	0.00000E+00	C24	1.20055E-04	C46	0.00000E+00
C3	0.00000E+00	C25	0.00000E+00	C47	0.00000E+00
C4	3.89778E-03	C26	8.97173E-04	C48	0.00000E+00
C5	0.00000E+00	C27	0.00000E+00	C49	0.00000E+00
C6	1.91856E-02	C28	-6.94896E-04	C50	0.00000E+00
C7	0.00000E+00	C29	0.00000E+00	C51	0.00000E+00
C8	0.00000E+00	C30	0.00000E+00	C52	0.00000E+00
C9	0.00000E+00	C31	0.00000E+00	C53	0.00000E+00
C10	0.00000E+00	C32	0.00000E+00	C54	0.00000E+00
C11	-3.09721E-03	C33	0.00000E+00	C55	0.00000E+00
C12	0.00000E+00	C34	0.00000E+00	C56	-2.70980E-06
C13	4.56851E-03	C35	0.00000E+00	C57	0.00000E+00
C14	0.00000E+00	C36	0.00000E+00	C58	1.77985E-05
C15	-3.09483E-03	C37	-4.00939E-05	C59	0.00000E+00
C16	0.00000E+00	C38	0.00000E+00	C60	4.38182E-05
C17	0.00000E+00	C39	-1.62966E-04	C61	0.00000E+00
C18	0.00000E+00	C40	0.00000E+00	C62	-3.20220E-05
C19	0.00000E+00	C41	-4.17055E-04	C63	0.00000E+00
C20	0.00000E+00	C42	0.00000E+00	C64	7.06257E-06
C21	0.00000E+00	C43	1.81808E-04	C65	0.00000E+00
C22	-1.25804E-04	C44	0.00000E+00	C66	-1.17007E-05

[0095]

[表16]

s16

C1	0.00000E+00	C23	0.00000E+00	C45	-1.03464E-05
C2	0.00000E+00	C24	1.06866E-03	C46	0.00000E+00
C3	0.00000E+00	C25	0.00000E+00	C47	0.00000E+00
C4	4.78645E-02	C26	2.08534E-03	C48	0.00000E+00
C5	0.00000E+00	C27	0.00000E+00	C49	0.00000E+00
C6	4.56322E-02	C28	-1.71143E-03	C50	0.00000E+00
C7	0.00000E+00	C29	0.00000E+00	C51	0.00000E+00
C8	0.00000E+00	C30	0.00000E+00	C52	0.00000E+00
C9	0.00000E+00	C31	0.00000E+00	C53	0.00000E+00
C10	0.00000E+00	C32	0.00000E+00	C54	0.00000E+00
C11	-2.06385E-03	C33	0.00000E+00	C55	0.00000E+00
C12	0.00000E+00	C34	0.00000E+00	C56	5.44613E-06
C13	2.14463E-02	C35	0.00000E+00	C57	0.00000E+00
C14	0.00000E+00	C36	0.00000E+00	C58	2.64149E-05
C15	-3.41602E-03	C37	-1.23326E-04	C59	0.00000E+00
C16	0.00000E+00	C38	0.00000E+00	C60	4.87517E-05
C17	0.00000E+00	C39	-3.31890E-04	C61	0.00000E+00
C18	0.00000E+00	C40	0.00000E+00	C62	-1.94661E-05
C19	0.00000E+00	C41	-5.05216E-04	C63	0.00000E+00
C20	0.00000E+00	C42	0.00000E+00	C64	-4.56261E-05
C21	0.00000E+00	C43	1.48931E-04	C65	0.00000E+00
C22	1.60593E-04	C44	0.00000E+00	C66	3.12212E-06

[0096] (数値実施例3)

図14は、数値実施例3に係るレンズ系131の無限遠合焦状態の球面収差図及び非点収差図である。また、図15は、数値実施例3に係るレンズ系131の無限遠合焦状態の画角と像点の関係を示した図である。図15に示すレンズ系131の場合も、通常回転対称レンズと比較して、像面の形状が拡大され、矩形の撮像素子102の感光面の領域を有効活用できていることが分かる。数値実施例3のレンズ系131は、図3に示した実施の形態3に対応する。数値実施例3のレンズ系131の面データを表17に、各種データを表18に、第3面、第4面、第5面、第6面、第7面、第10面、第12面、第13面および第14面の非球面・自由曲面データをそれぞれ表1

9、表20、表21、表22、表23、表24、表25、表26および表27に示す。

[0097] [表17]

s	面のタイプ	r	d	nd	vd
1	球面	20.939	1.000	1.77250	49.6
2	球面	7.827	3.400		
3	非球面	-139.965	1.000	1.53459	56.3
4	非球面	4.258	2.900		
5	XY多項式面	-4.556	1.000	1.53459	56.3
6	非球面	2.964	1.459		
7	非球面	6.399863	5.600	1.63450	23.9
8	球面	-11.781	0.600		
9	平面	絞り	0.200		
10	非球面	3.191	2.600	1.61800	63.4
11	球面	-2.170	0.700	1.84666	23.8
12	非球面	-172.623	0.488		
13	XY多項式面	6.035	1.280	1.53459	56.3
14	XY多項式面	-2.336	2.153		

[0098] [表18]

Fナンバー	3.70
垂直半画角	82°
水平半画角	92°
垂直像高@垂直半画角	1.709
水平像高@水平半画角	2.503
水平像高@垂直半画角	2.116
光学全長	24.380

[0099]

[表19]

s3

K	-1.00000E+02
A4	6.12133E-03
A6	-2.60579E-04
A8	4.55896E-06
A10	-2.68030E-08
A12	0.00000E+00
A14	0.00000E+00
A16	0.00000E+00
A18	0.00000E+00
A20	0.00000E+00

[0100] [表20]

s4

K	0.00000E+00
A4	3.58941E-03
A6	2.61463E-04
A8	-5.43945E-05
A10	1.34565E-06
A12	0.00000E+00
A14	0.00000E+00
A16	0.00000E+00
A18	0.00000E+00
A20	0.00000E+00

[0101]

[表21]

s5					
C1	0.00000E+00	C23	0.00000E+00	C45	9.62058E-05
C2	0.00000E+00	C24	-5.41404E-03	C46	0.00000E+00
C3	0.00000E+00	C25	0.00000E+00	C47	0.00000E+00
C4	6.66292E-02	C26	-5.25326E-03	C48	0.00000E+00
C5	0.00000E+00	C27	0.00000E+00	C49	0.00000E+00
C6	6.04249E-02	C28	-1.71134E-03	C50	0.00000E+00
C7	0.00000E+00	C29	0.00000E+00	C51	0.00000E+00
C8	0.00000E+00	C30	0.00000E+00	C52	0.00000E+00
C9	0.00000E+00	C31	0.00000E+00	C53	0.00000E+00
C10	0.00000E+00	C32	0.00000E+00	C54	0.00000E+00
C11	1.76954E-02	C33	0.00000E+00	C55	0.00000E+00
C12	0.00000E+00	C34	0.00000E+00	C56	-1.51280E-06
C13	3.45749E-02	C35	0.00000E+00	C57	0.00000E+00
C14	0.00000E+00	C36	0.00000E+00	C58	-7.68253E-06
C15	1.47355E-02	C37	8.68592E-05	C59	0.00000E+00
C16	0.00000E+00	C38	0.00000E+00	C60	-1.55560E-05
C17	0.00000E+00	C39	3.46728E-04	C61	0.00000E+00
C18	0.00000E+00	C40	0.00000E+00	C62	-1.50949E-05
C19	0.00000E+00	C41	5.15216E-04	C63	0.00000E+00
C20	0.00000E+00	C42	0.00000E+00	C64	-8.64710E-06
C21	0.00000E+00	C43	3.45952E-04	C65	0.00000E+00
C22	-1.83666E-03	C44	0.00000E+00	C66	-2.04717E-06

[0102] [表22]

s6	
K	0.00000E+00
A4	2.78169E-02
A6	1.41362E-03
A8	-1.11609E-03
A10	4.81727E-05
A12	0.00000E+00
A14	0.00000E+00
A16	0.00000E+00
A18	0.00000E+00
A20	0.00000E+00

[0103] [表23]

s7

K	0.00000E+00
A4	3.21014E-03
A6	8.92253E-04
A8	-3.51402E-04
A10	7.04325E-05
A12	-8.00000E-06
A14	0.00000E+00
A16	0.00000E+00
A18	0.00000E+00
A20	0.00000E+00

[0104] [表24]

s10

K	0.00000E+00
A4	-5.03765E-03
A6	8.78710E-03
A8	8.54763E-03
A10	-2.92401E-02
A12	1.82766E-21
A14	5.72302E-24
A16	1.79149E-26
A18	0.00000E+00
A20	0.00000E+00

[0105]

[表25]

s12	
K	0.00000E+00
A4	-1.23149E-02
A6	1.28353E-03
A8	1.39797E-04
A10	-5.42405E-05
A12	0.00000E+00
A14	0.00000E+00
A16	0.00000E+00
A18	0.00000E+00
A20	0.00000E+00

[0106]

[表26]

s13

C1	0.00000E+00	C23	0.00000E+00	C45	-1.58722E-03
C2	0.00000E+00	C24	4.73862E-03	C46	0.00000E+00
C3	0.00000E+00	C25	0.00000E+00	C47	0.00000E+00
C4	8.64225E-02	C26	8.43041E-03	C48	0.00000E+00
C5	0.00000E+00	C27	0.00000E+00	C49	0.00000E+00
C6	1.07422E-01	C28	1.67099E-03	C50	0.00000E+00
C7	0.00000E+00	C29	0.00000E+00	C51	0.00000E+00
C8	0.00000E+00	C30	0.00000E+00	C52	0.00000E+00
C9	0.00000E+00	C31	0.00000E+00	C53	0.00000E+00
C10	0.00000E+00	C32	0.00000E+00	C54	0.00000E+00
C11	-2.01893E-02	C33	0.00000E+00	C55	0.00000E+00
C12	0.00000E+00	C34	0.00000E+00	C56	9.84397E-05
C13	2.19255E-02	C35	0.00000E+00	C57	0.00000E+00
C14	0.00000E+00	C36	0.00000E+00	C58	3.82793E-04
C15	-3.30992E-02	C37	-8.61608E-04	C59	0.00000E+00
C16	0.00000E+00	C38	0.00000E+00	C60	8.04365E-04
C17	0.00000E+00	C39	-3.55742E-03	C61	0.00000E+00
C18	0.00000E+00	C40	0.00000E+00	C62	4.98290E-04
C19	0.00000E+00	C41	-6.46032E-03	C63	0.00000E+00
C20	0.00000E+00	C42	0.00000E+00	C64	1.71530E-03
C21	0.00000E+00	C43	-6.50664E-03	C65	0.00000E+00
C22	5.46412E-04	C44	0.00000E+00	C66	1.80716E-04

[0107]

[表27]

s14			
C1	0.00000E+00	C23	0.00000E+00
C2	0.00000E+00	C24	4.11159E-03
C3	0.00000E+00	C25	0.00000E+00
C4	1.76158E-01	C26	2.84657E-03
C5	0.00000E+00	C27	0.00000E+00
C6	2.08491E-01	C28	-1.41039E-03
C7	0.00000E+00	C29	0.00000E+00
C8	0.00000E+00	C30	0.00000E+00
C9	0.00000E+00	C31	0.00000E+00
C10	0.00000E+00	C32	0.00000E+00
C11	2.50432E-02	C33	0.00000E+00
C12	0.00000E+00	C34	0.00000E+00
C13	1.36515E-01	C35	0.00000E+00
C14	0.00000E+00	C36	0.00000E+00
C15	1.92835E-04	C37	-8.06045E-04
C16	0.00000E+00	C38	0.00000E+00
C17	0.00000E+00	C39	-4.15959E-03
C18	0.00000E+00	C40	0.00000E+00
C19	0.00000E+00	C41	-6.00524E-03
C20	0.00000E+00	C42	0.00000E+00
C21	0.00000E+00	C43	-5.25336E-03
C22	-1.66465E-03	C44	0.00000E+00
		C45	-8.28688E-04
		C46	0.00000E+00
		C47	0.00000E+00
		C48	0.00000E+00
		C49	0.00000E+00
		C50	0.00000E+00
		C51	0.00000E+00
		C52	0.00000E+00
		C53	0.00000E+00
		C54	0.00000E+00
		C55	0.00000E+00
		C56	2.28287E-04
		C57	0.00000E+00
		C58	9.83452E-04
		C59	0.00000E+00
		C60	1.20403E-03
		C61	0.00000E+00
		C62	1.18587E-03
		C63	0.00000E+00
		C64	1.50641E-03
		C65	0.00000E+00
		C66	2.51269E-04

[0108] 以下の表 2 8 に、各数値実施例のレンズ系における各条件の対応値を示す

。

[0109] (条件の対応値)

[0110]

[表28]

	数値実施例1	数値実施例2	数値実施例3
条件(1)	92.0	92.0	92.0
条件(2)	1.684	1.689	1.238
条件(3)	0.636	0.636	0.766
条件(4)	10	10	10
条件(5)	22.438	21.177	36.045
条件(6)	1.49175	1.49175	1.53459
条件(7)	2	2	1

産業上の利用可能性

[0111] 本実施に係るレンズ系は、デジタルスチルカメラ、デジタルビデオカメラ、携帯電話機器のカメラ、PDA (Personal Digital Assistance) のカメラ、監視システムにおける監視カメラ、Webカメラ、車載カメラ等に適用可能であり、特にデジタルスチルカメラシステム、デジタルビデオカメラシステムといった高画質が要求される撮影光学系に好適である。

[0112] また本実施に係るレンズ系は、本実施に係る交換レンズ装置の中でも、デジタルビデオカメラシステムに備えられる。

符号の説明

[0113] 100 カメラシステム
 111, 121, 131 レンズ系
 102 撮像素子
 103 カメラ本体
 200 撮像システム
 201 撮像光学系
 202 画像処理部
 A 開口絞り
 L1～L8 レンズ素子

請求の範囲

- [請求項1] 光軸に配置された矩形の撮像素子に結像するレンズ系であって、
前記光軸に対して非対称である第2自由曲面レンズを備え、
前記光軸から最短像高に対する所定の比率の長さ離れた円における
前記第2自由曲面レンズのサグ量が、前記光軸を通り前記撮像素子の
長辺に平行な第1面と前記円との交点、及び前記光軸を通り前記撮像
素子の短辺に平行な第2面と前記円との交点以外に極値を有する、
レンズ系。
- [請求項2] 前記所定の比率は40%～80%である、
請求項1に記載のレンズ系。
- [請求項3] 物体側と像面側との間に開口絞りを有し、
前記開口絞りより物体側に第1自由曲面レンズを、前記開口絞りよ
り像面側に前記第2自由曲面レンズを有する、
請求項1又は2に記載のレンズ系。
- [請求項4] 前記第2自由曲面レンズは最も像面側に配置され、物体側と像面側
の両面が自由曲面である、
請求項3に記載のレンズ系。
- [請求項5] 物体側から順に、物体側に凸形状の負のパワーを有するメニスカス
である第1レンズ素子と、負のパワーを有する第2レンズ素子を有す
る、
請求項1～4のいずれかに記載のレンズ系。
- [請求項6] 前記第1自由曲面レンズは前記第2レンズ素子の像面側に配置され
、少なくとも物体側が自由曲面である、
請求項5に記載のレンズ系。
- [請求項7] 前記光軸に対して回転対称なレンズ素子を少なくとも3つ以上有す
る、
請求項1～6のいずれかに記載のレンズ系。
- [請求項8] 前記撮像素子の感光面と前記光軸との交点から前記感光面の角部へ

の方向の $\pm 25^\circ$ の範囲に前記極値を有する、
請求項1～7のいずれかに記載のレンズ系。

[請求項9] 前記撮像素子の感光面の長辺と短辺の比が a 対 b であるとき、前記第1面に対して $\tan^{-1}(b/a) \pm 25^\circ$ の範囲に前記極値を有する、
請求項1～7のいずれかに記載のレンズ系。

[請求項10] 前記撮像素子の長辺と短辺の比が16対9であるとき、前記第1面に対して $29 \pm 25^\circ$ の範囲に前記極値を有する、
請求項1～7のいずれかに記載のレンズ系。

[請求項11] 前記第1面に対して $33 \pm 21^\circ$ の範囲に前記極値を有する、
請求項1～7のいずれかに記載のレンズ系。

[請求項12] 以下の条件(1)を満足する、請求項1に記載のレンズ系：

$$\omega_{\text{LONG}} > 60^\circ \quad \dots (1)$$

ここで、

ω_{LONG} ：撮像素子の長辺方向の最大半画角である。

[請求項13] 以下の条件(2)を満足する、請求項1に記載のレンズ系：

$$1 < D_{\text{LSHORT}} / D_{\text{SSHORT}} \quad \dots (2)$$

ここで、

D_{LSHORT} ：撮像素子の短辺方向の最大半画角と等しい画角の、撮像素子の長辺方向の入射光に対する像点と、撮像素子に垂直な入射光に対する像点との長辺方向の最大距離

D_{SSHORT} ：撮像素子の短辺方向の最大半画角の入射光に対する像点と撮像素子に垂直な入射光に対する像点との短辺方向の最大距離である。

[請求項14] 以下の条件(3)を満足する、請求項1に記載のレンズ系：

$$0.5 < D_{\text{SSHORT}} \times \omega_{\text{LONG}} / (D_{\text{LLONG}} \times \omega_{\text{SHORT}}) < 1 \quad \dots (3)$$

ここで、

ω_{LONG} : 撮像素子の長辺方向の最大半画角

ω_{SHORT} : 撮像素子の短辺方向の最大半画角

D_{LLONG} : 撮像素子の長辺方向の最大半画角の入射光に対する像点と撮像素子に垂直な入射光に対する像点との長辺方向の最大距離

D_{SSHORT} : 撮像素子の短辺方向の最大半画角の入射光に対する像点と撮像素子に垂直な入射光に対する像点との短辺方向の最大距離である。

[請求項15] 以下の条件（４）を満足する、請求項１に記載のレンズ系：

$$\omega_{\text{LONG}} - \omega_{\text{SHORT}} > 0 \quad \cdots (4)$$

ここで、

ω_{LONG} : 撮像素子の長辺方向の最大半画角

ω_{SHORT} : 撮像素子の短辺方向の最大半画角

である。

[請求項16] 以下の条件（５）を満足する、請求項１に記載のレンズ系：

$$L \times F_{\text{no.}} / D_{\text{LLONG}} < 40 \quad \cdots (5)$$

ここで、

L : レンズ系の光学全長

$F_{\text{no.}}$: レンズ系のF値

D_{LLONG} : 撮像素子の長辺方向の最大半画角の入射光に対する像点と撮像素子に垂直な入射光に対する像点との長辺方向の最大距離である。

[請求項17] 以下の条件（６）を満足する、請求項１に記載のレンズ系：

$$n_{\text{FREE}} < 1.7 \quad \cdots (6)$$

ここで、

n_{FREE} : 第１又は第２自由曲面レンズのd線に対する屈折率

である。

[請求項18] レンズ素子と開口絞りとをさらに有し、以下の条件（７）を満足す

る、請求項 1 に記載のレンズ系：

$$-3 \leq N_o - N_i \leq 3 \quad \cdots (7)$$

ここで、

N_o ：開口絞りよりも物体側のレンズ素子の枚数

N_i ：開口絞りよりも像面側のレンズ素子（第 2 自由曲面レンズを含む）の枚数

である。

[請求項19] 前記レンズ系のイメージサークルが、前記撮像素子で包含されない

、

請求項 1 に記載のレンズ系。

[請求項20] 請求項 1 に記載のレンズ系と、

前記光軸で前記レンズ系が結像する位置に配置された矩形の前記撮像素子と、を備える、

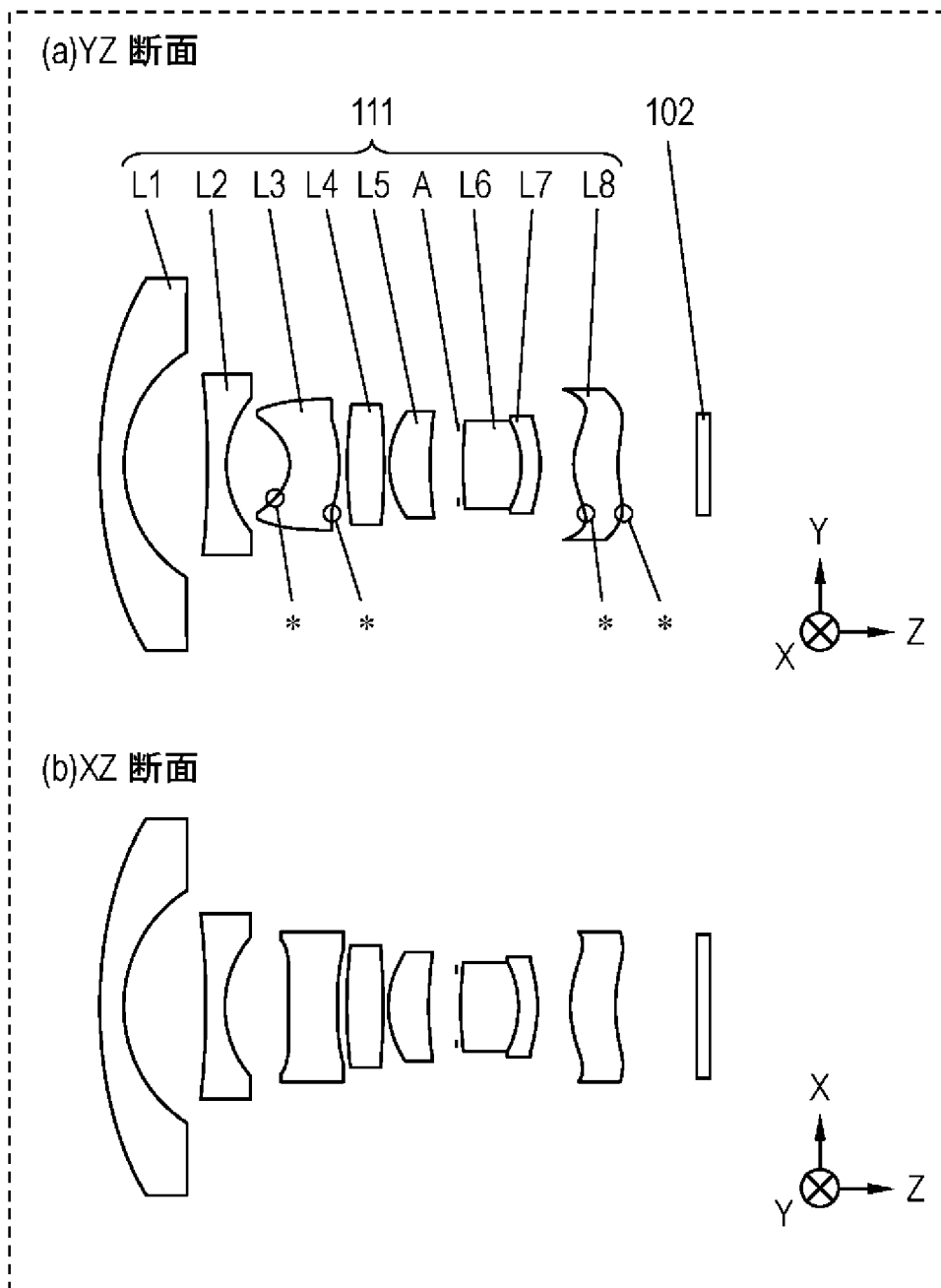
カメラシステム。

[請求項21] 請求項 1 に記載のレンズ系と、

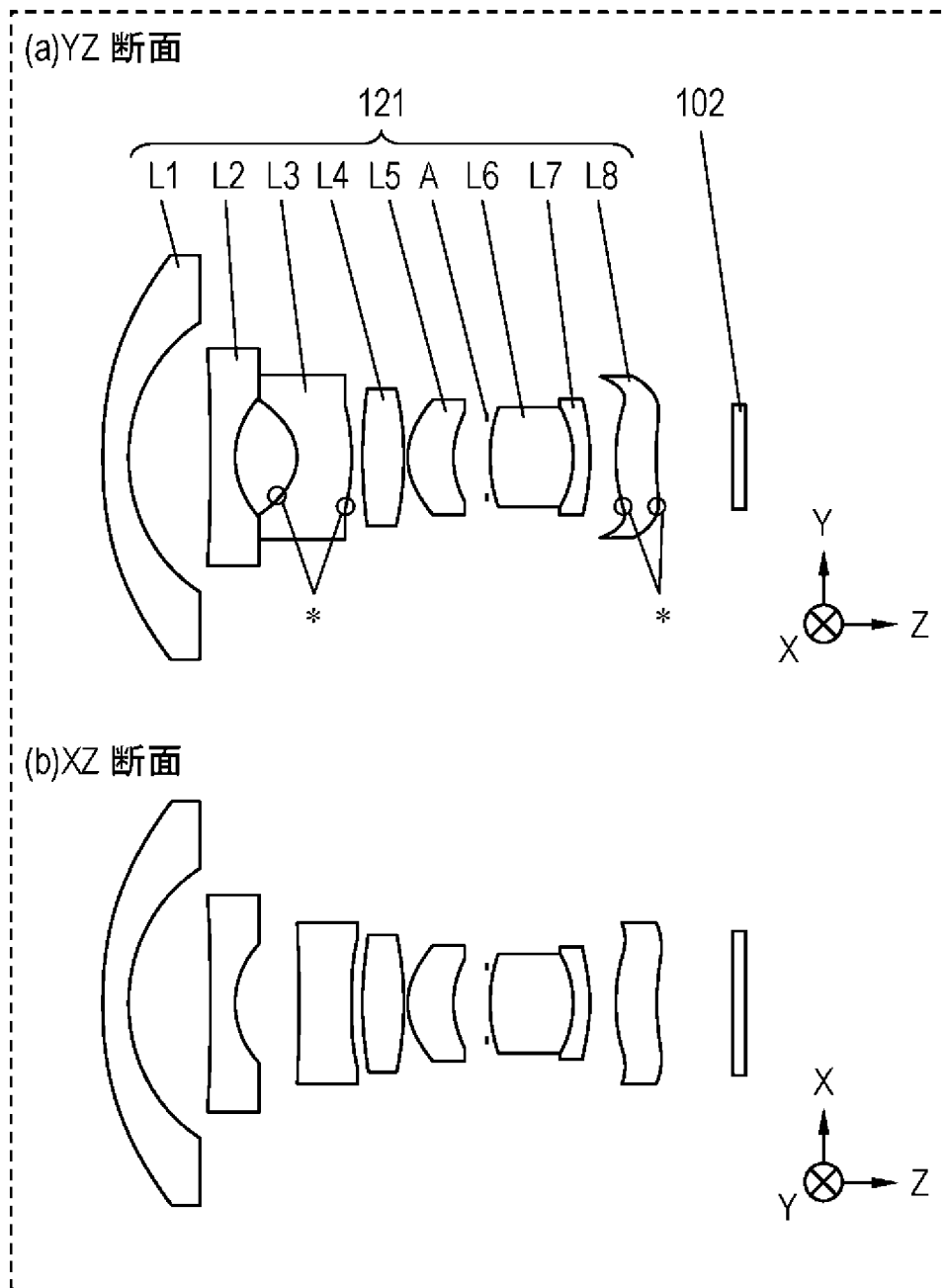
前記光軸で前記レンズ系が結像する位置に配置された矩形の前記撮像素子と、

前記撮像素子が生成する画像を処理する画像処理部と、を備える、撮像システム。

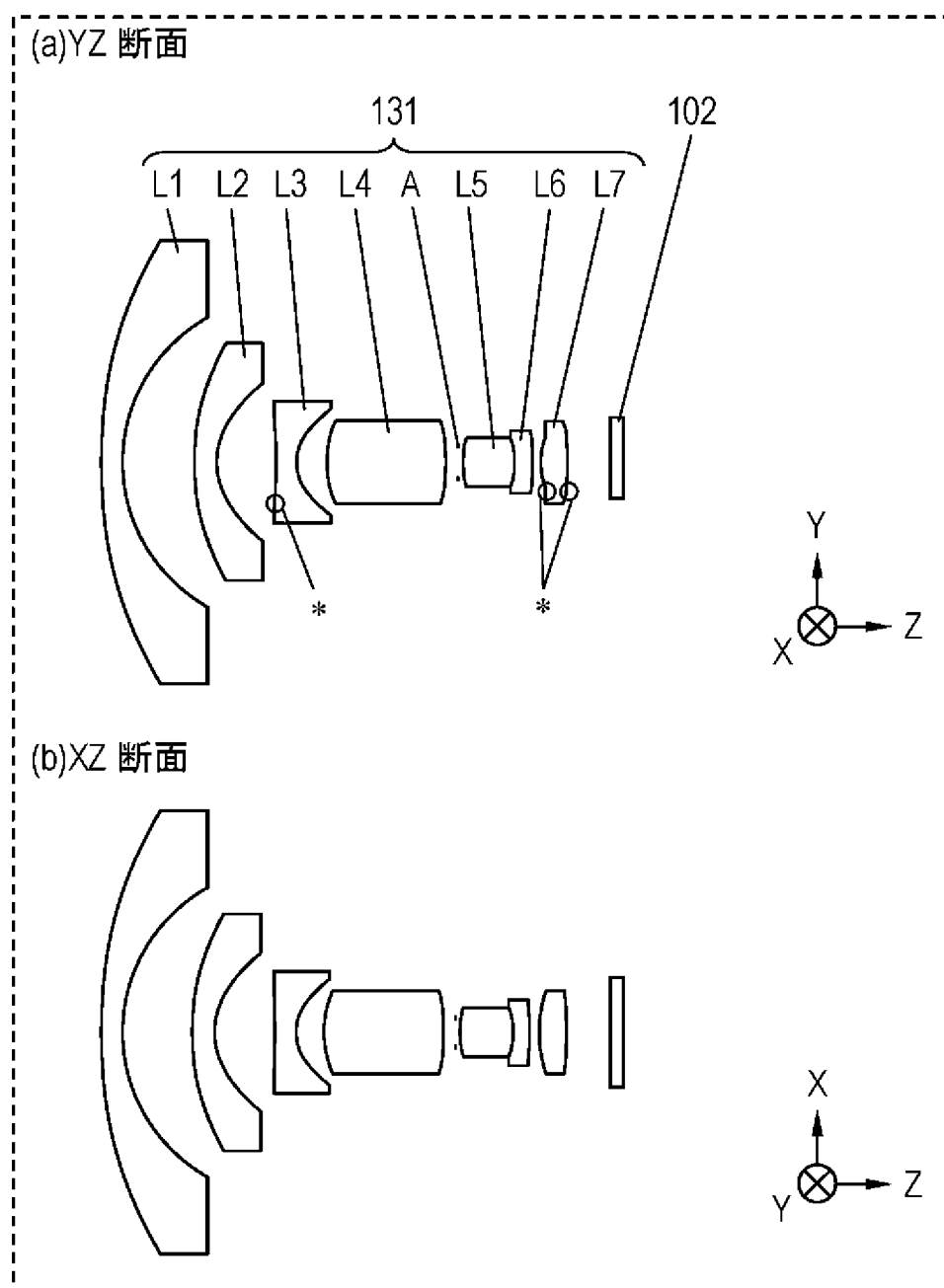
[図1]



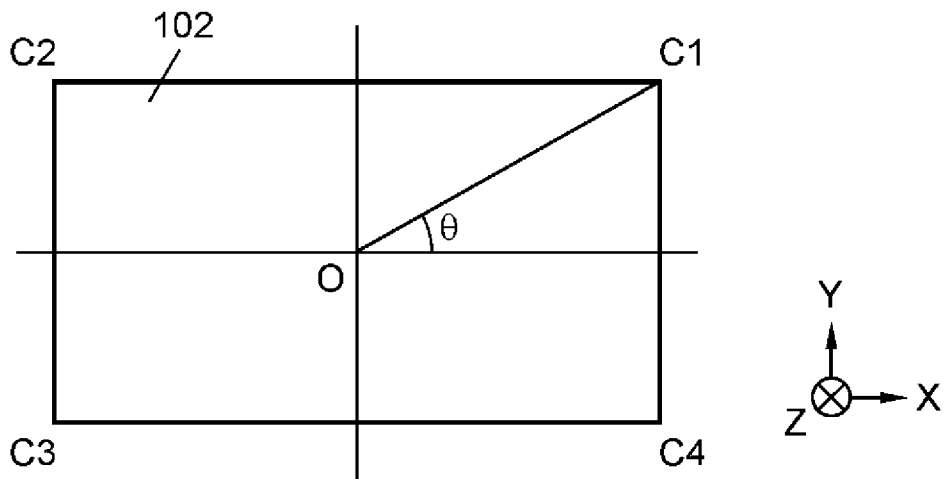
[図2]



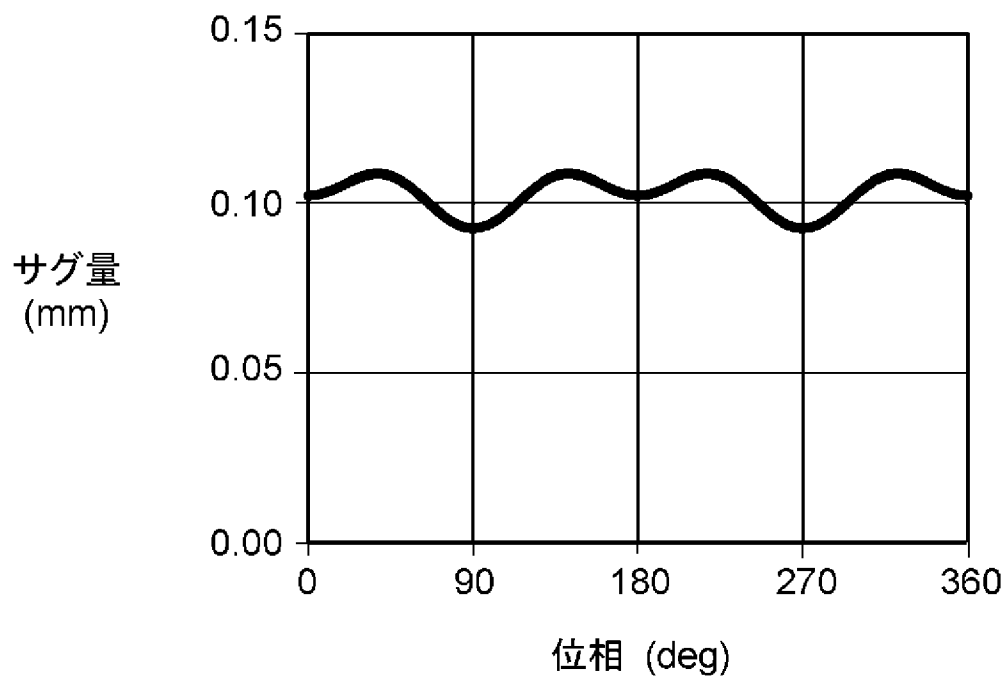
[図3]



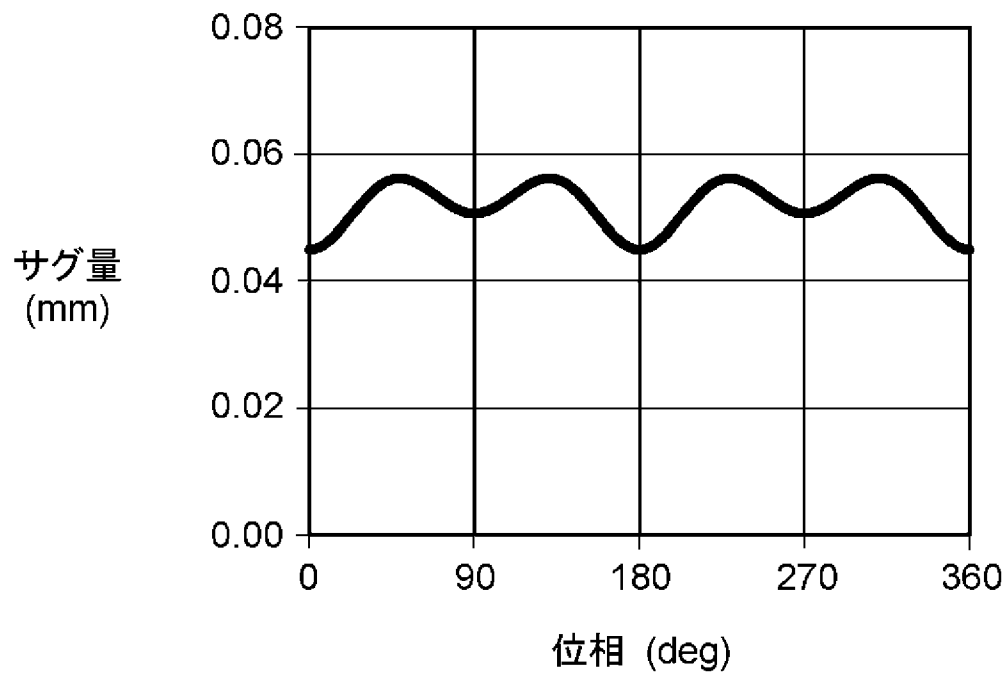
[図4]



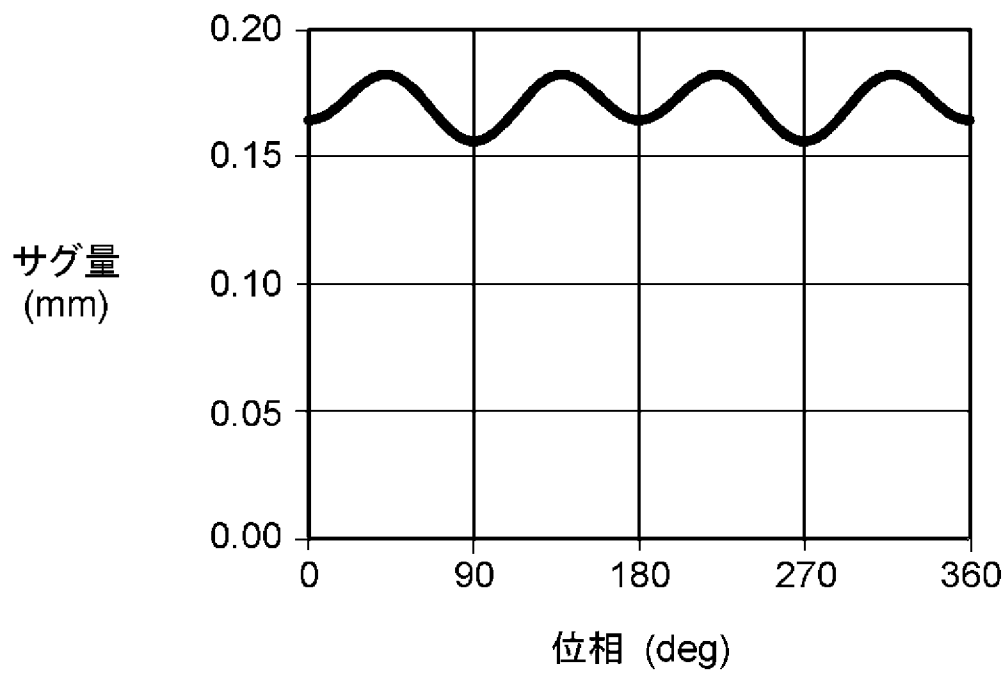
[図5]



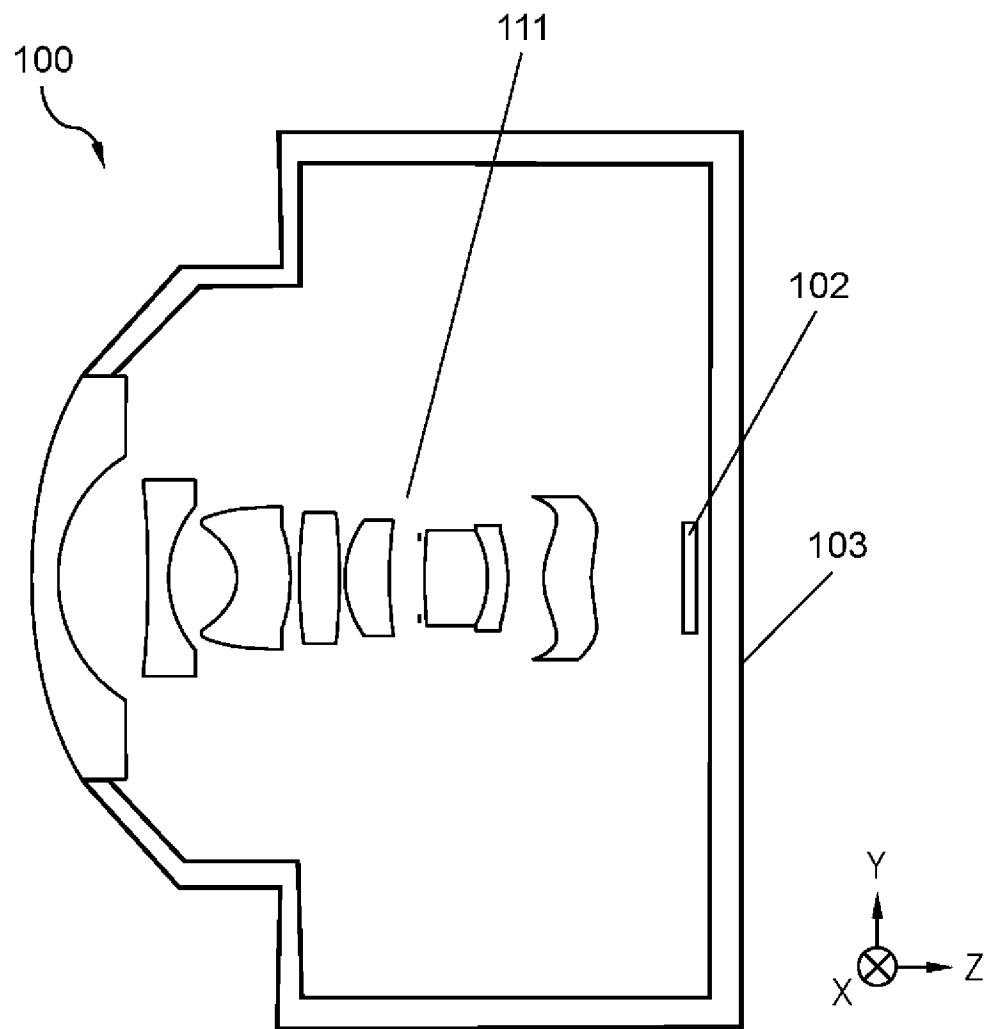
[図6]



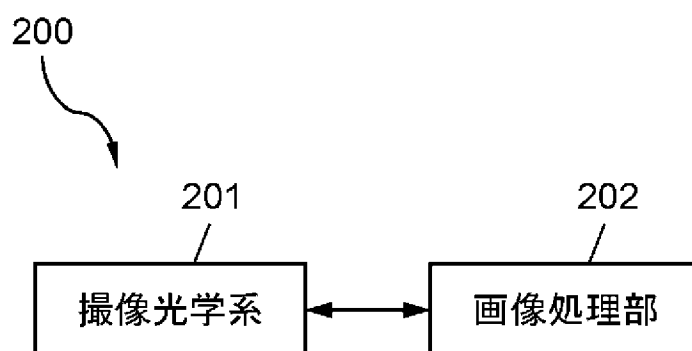
[図7]



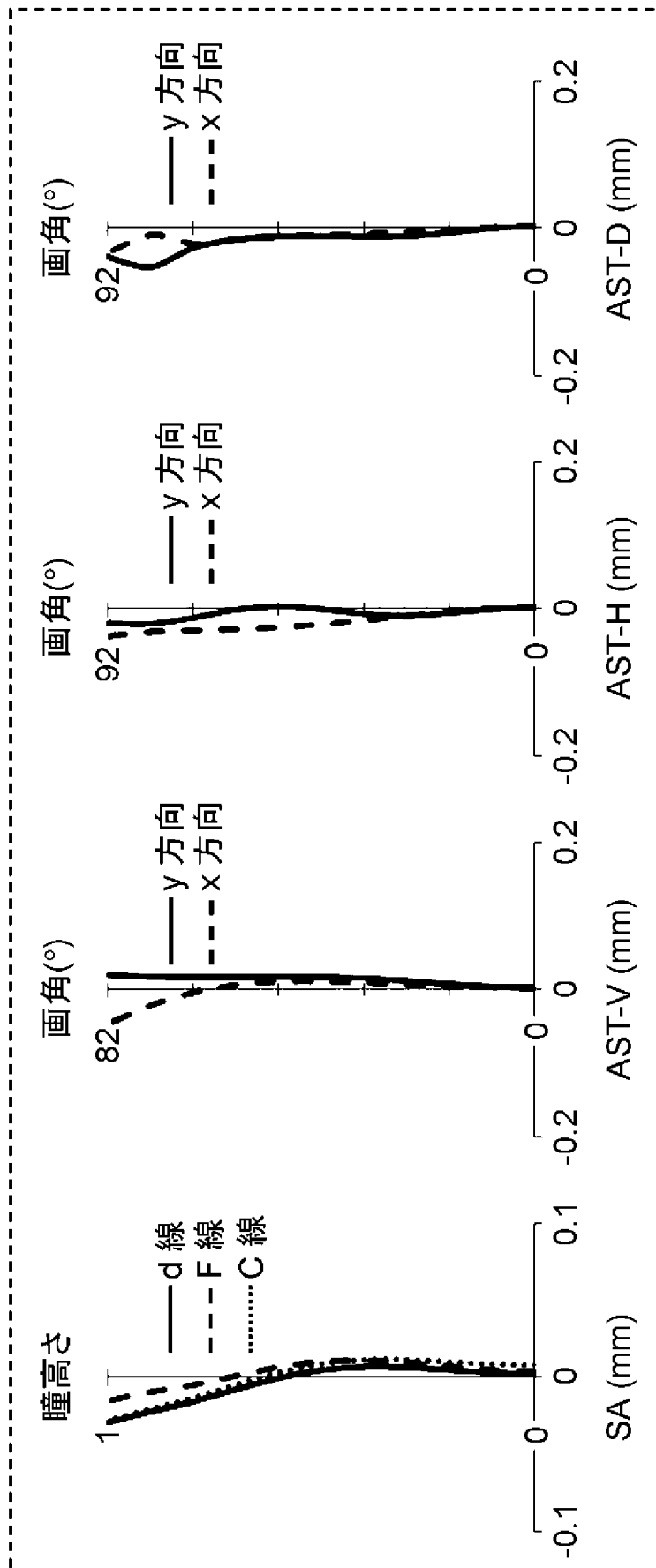
[図8]



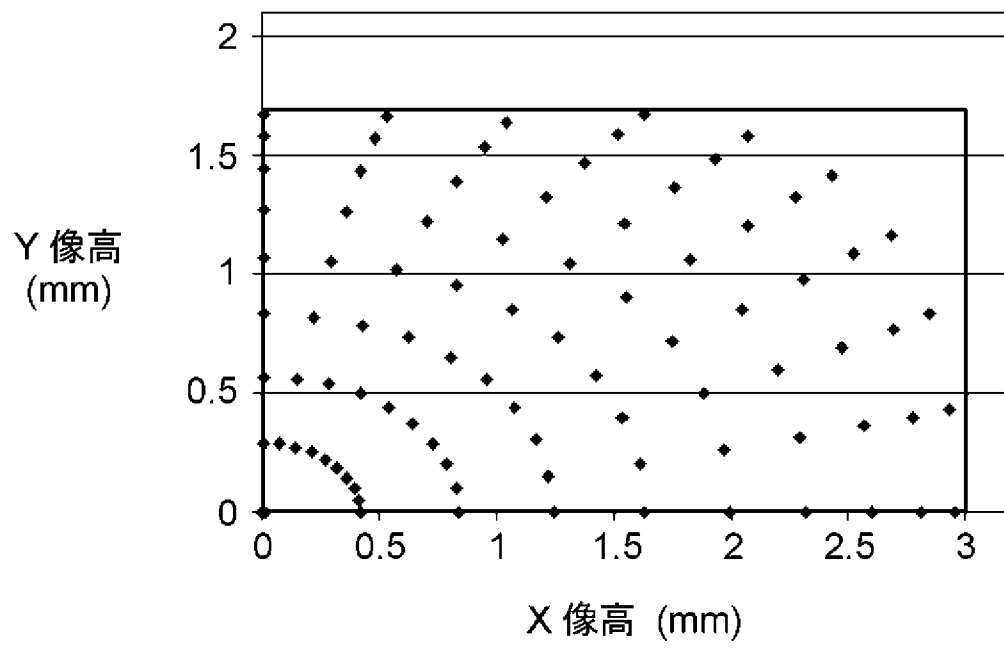
[図9]



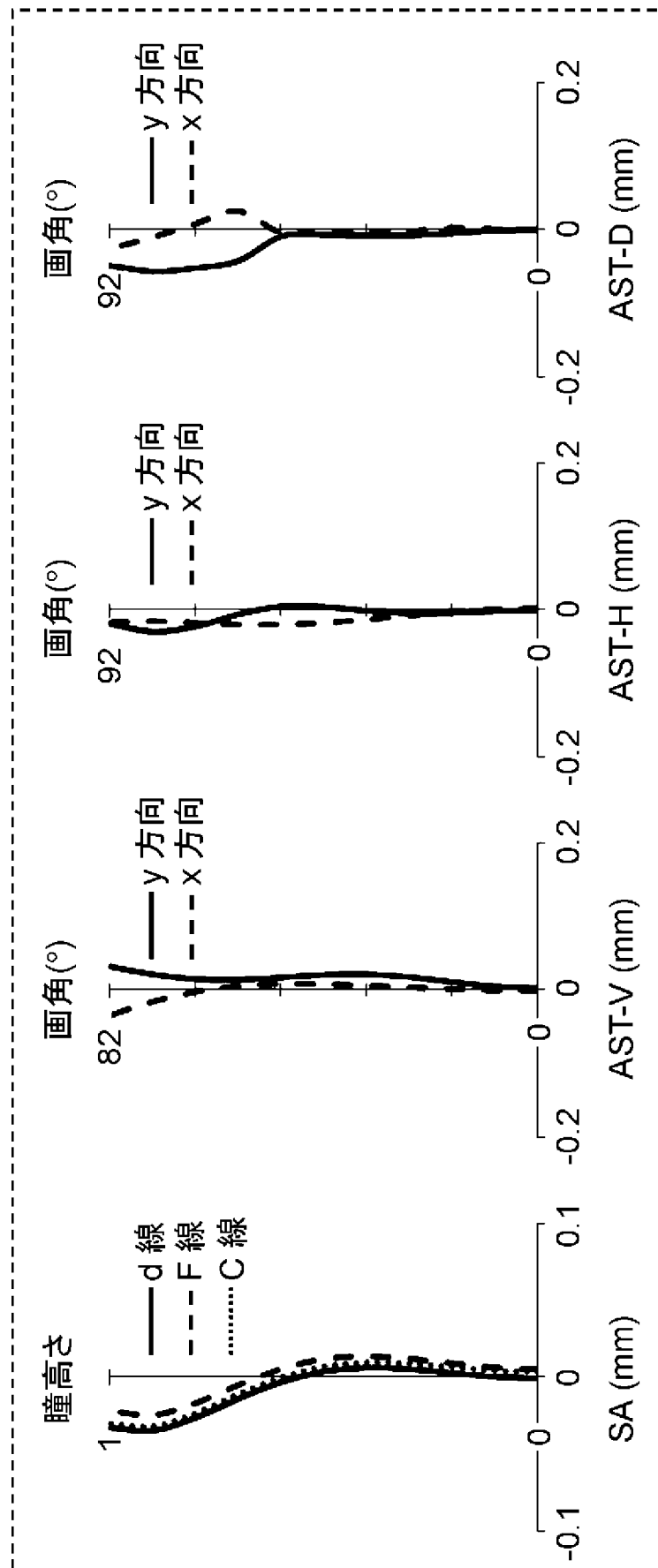
[図10]



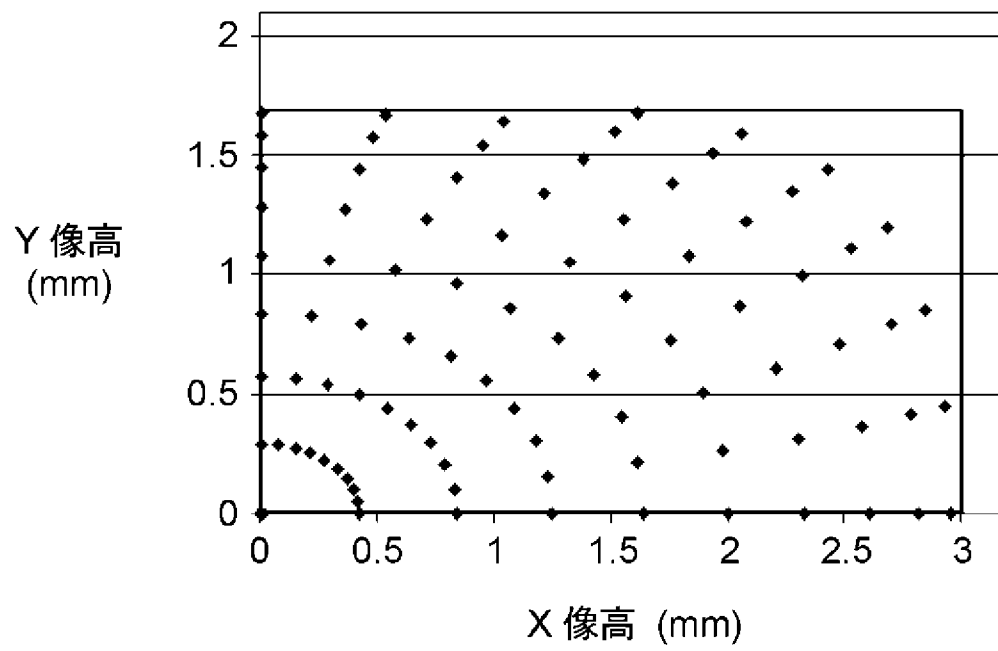
[図11]



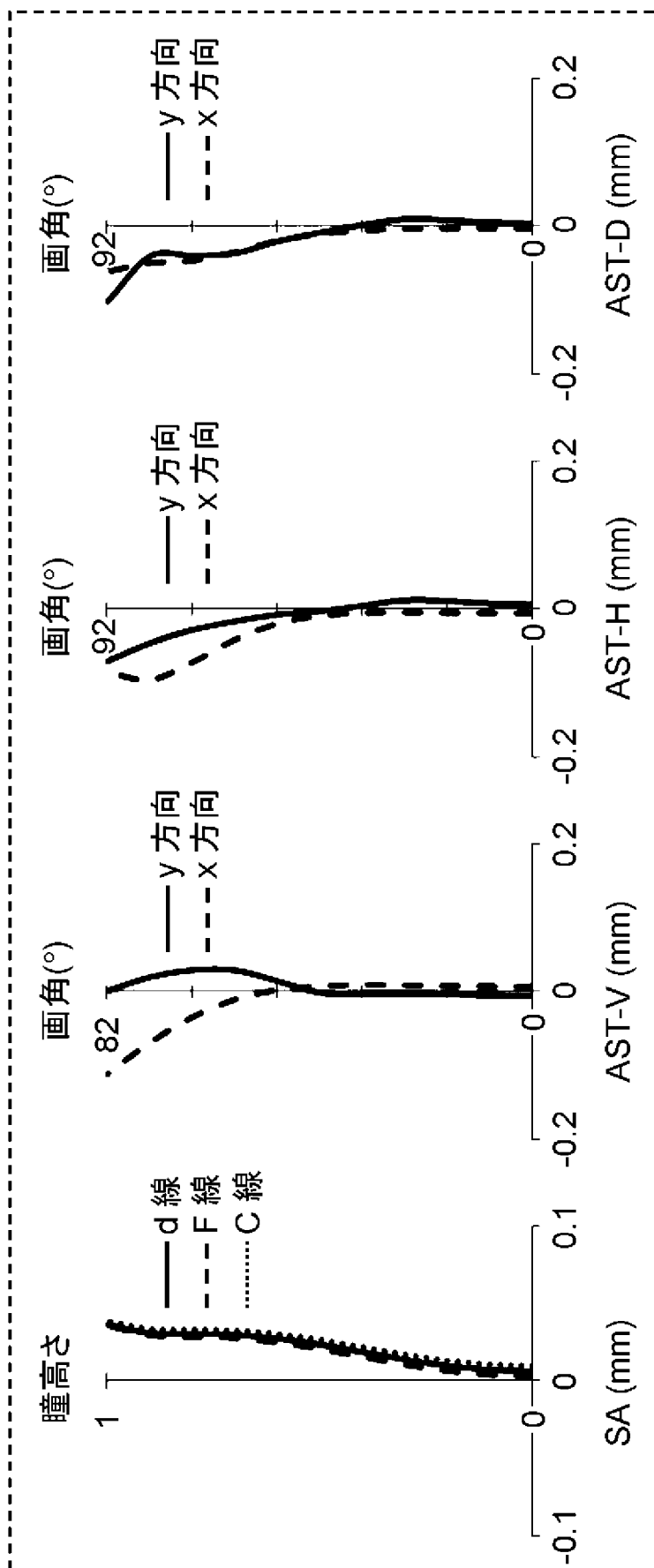
[図12]



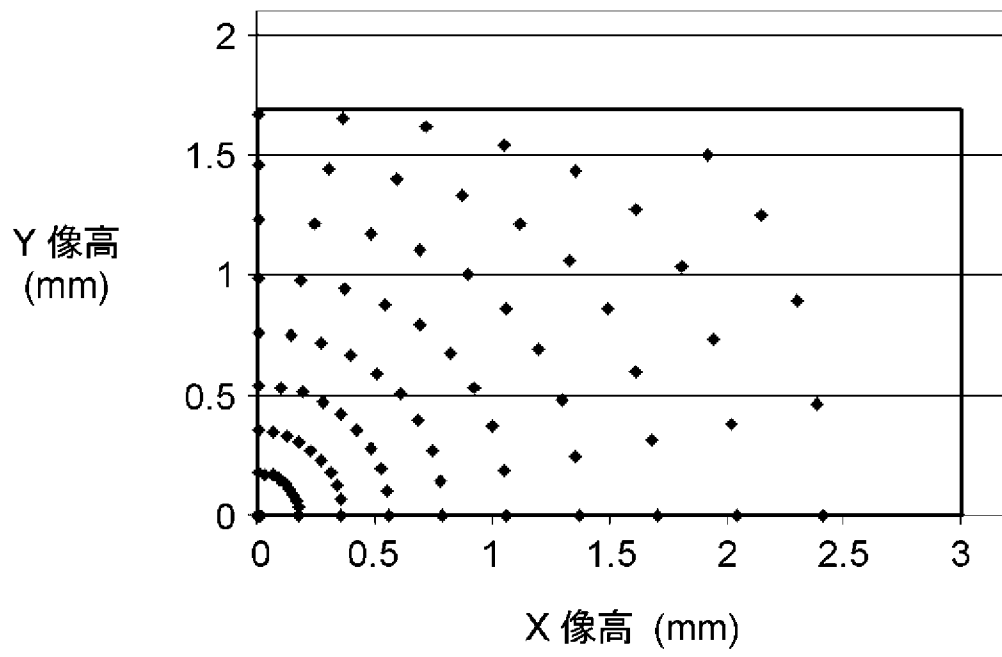
[図13]



[図14]



[図15]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2018/004774

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

Int.Cl. G02B13/04 (2006.01) i, G02B13/18 (2006.01) i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int.Cl. G02B13/04, G02B13/18

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Published examined utility model applications of Japan	1922-1996
Published unexamined utility model applications of Japan	1971-2018
Registered utility model specifications of Japan	1996-2018
Published registered utility model applications of Japan	1994-2018

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X A	JP 2016-148725 A (TOYOTEC CO., LTD.) 18 August 2016, paragraphs [0013], [0016], [0017], examples (Family: none)	1-3, 5-21 4
X A	JP 2010-276755 A (KONICA MINOLTA OPTO, INC.) 09 December 2010, paragraph [0027], examples 1-5 & US 2010/0302647 A1, paragraph [0042], examples 1-5 & EP 2259119 A1 & CN 101900868 A	1-6, 8-21 7
X	JP 2006-11093 A (KONICA MINOLTA OPTO, INC.) 12 January 2006, examples, examples 1-4 (Family: none)	1-21

☐ Further documents are listed in the continuation of Box C.

☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
10 May 2018 (10.05.2018)

Date of mailing of the international search report
22 May 2018 (22.05.2018)

Name and mailing address of the ISA/
Japan Patent Office
3-4-3, Kasumigaseki, Chiyoda-ku,
Tokyo 100-8915, Japan

Authorized officer

Telephone No.

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（IPC））

Int.Cl. G02B13/04(2006.01)i, G02B13/18(2006.01)i

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（IPC））

Int.Cl. G02B13/04, G02B13/18

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1922-1996年
日本国公開実用新案公報	1971-2018年
日本国実用新案登録公報	1996-2018年
日本国登録実用新案公報	1994-2018年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
X A	JP 2016-148725 A（株式会社トヨタック）2016.08.18, [0013], [0016], [0017], 実施例（ファミリーなし）	1-3, 5-21 4
X A	JP 2010-276755 A（コニカミノルタオプト株式会社）2010.12.09, [0027], 実施例 1-5 & US 2010/0302647 A1, [0042], Examples 1-5 & EP 2259119 A1 & CN 101900868 A	1-6, 8-21 7
X	JP 2006-11093 A（コニカミノルタオプト株式会社）2006.01.12, 特 許請求の範囲, 実施例 1-4（ファミリーなし）	1-21

C欄の続きにも文献が列挙されている。

パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）
「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

10.05.2018

国際調査報告の発送日

22.05.2018

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁（ISA/J P）

郵便番号 100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官（権限のある職員）

堀井 康司

2 V

3 7 1 3

電話番号 03-3581-1101 内線 3271